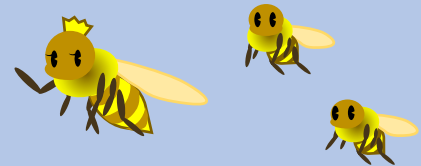


東海の畜産



令和8年3月
農林水産省
東海農政局
生産部畜産課

目次

[1. 東海の農業・畜産の概要](#)

[2. 乳用牛](#)

[3. 肉用牛](#)

[4. 豚](#)

[5. 採卵鶏](#)

[6. うずら](#)

[7. 肉用鶏](#)

[8. 飼料](#)

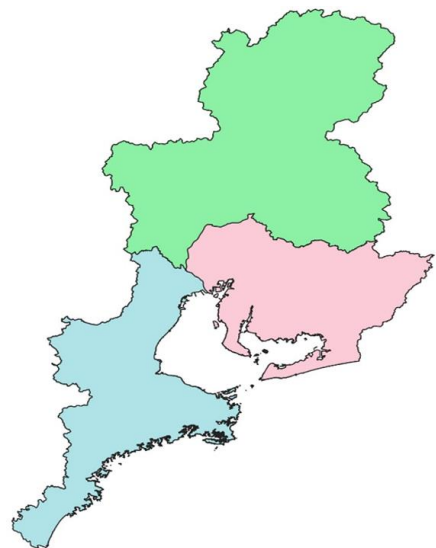
[9. 養蜂](#)

[10. 競馬（概要）](#)

[11. 畜産物の輸出](#)

○利用上の注意

- ・ 東海（地域）：岐阜県、愛知県、三重県
- ・ 統計数値については、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内容の計が一致しない場合がある
- ・ 各項目番号を押していただくと、該当ページに飛ぶことができますのでご活用ください

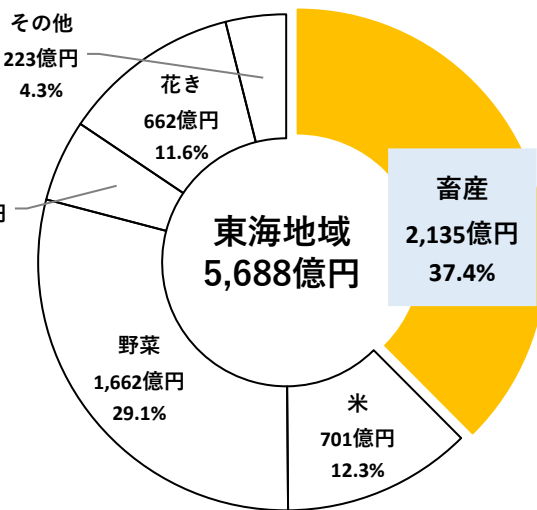
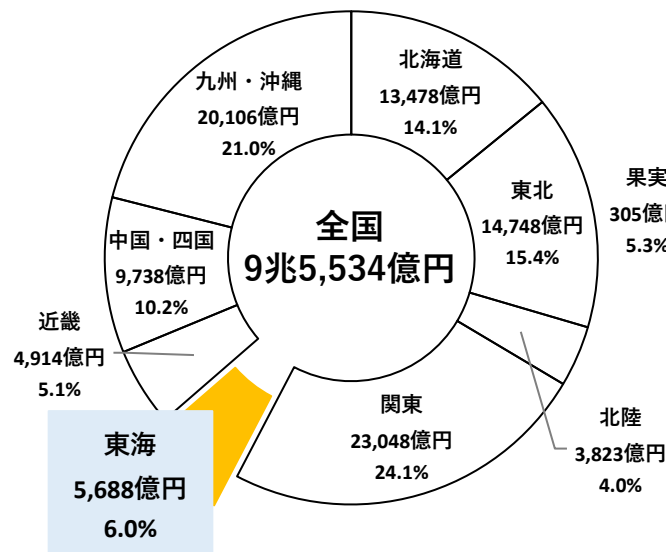




1. 東海の農業・畜産の概要

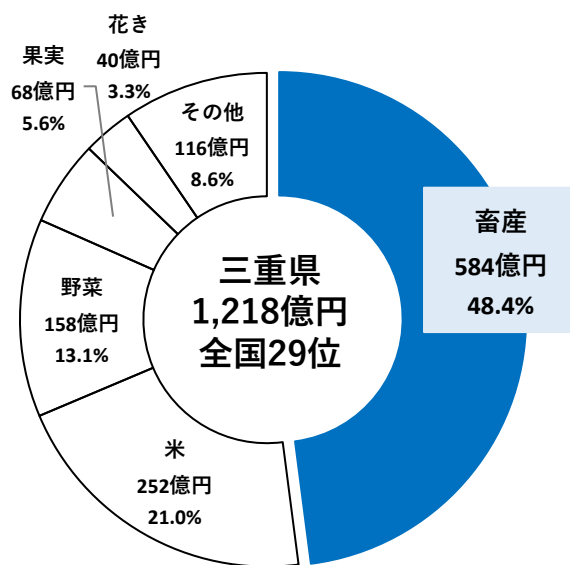
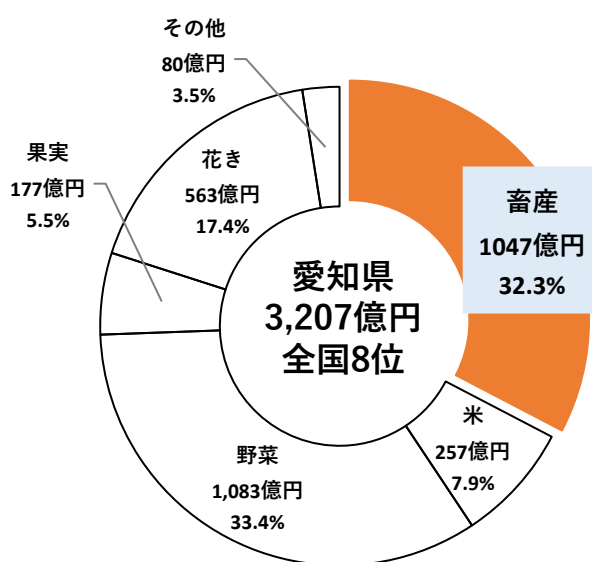
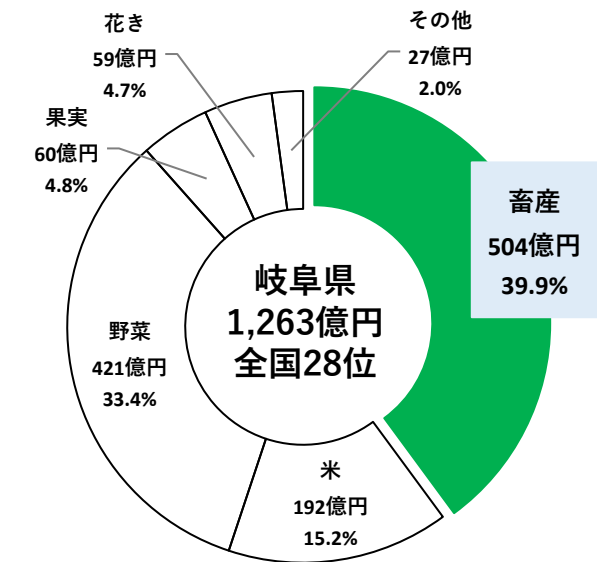
○地域別農業産出額【令和5年】

○東海地域内農業産出額【令和5年】



- 東海地域の農業産出額は**5,688億円**で、全国の**6.0%**を占める
- 東海地域内における畜産物産出額は**2,135億円**で**37.4%**を占めており、畜産が盛んな地域である
- 県別の畜産物産出額は、**岐阜県**及び**愛知県**では**30%以上**を占め、**三重県**では**48.4%**を占めている
→県別にみても畜産が盛んであることがわかる

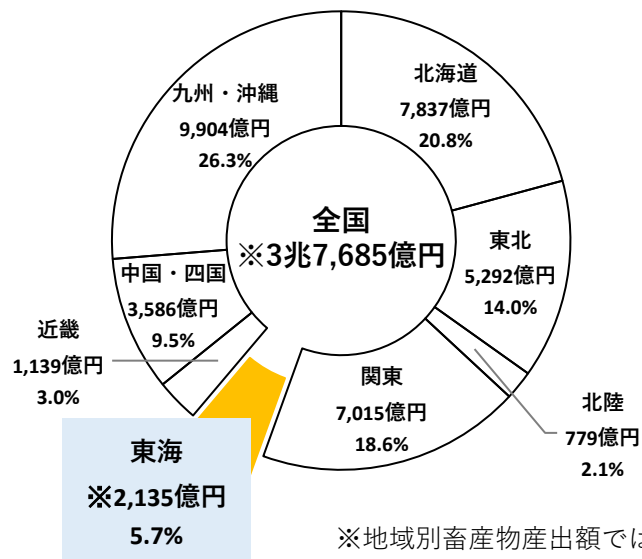
○県別農業産出額【令和5年】



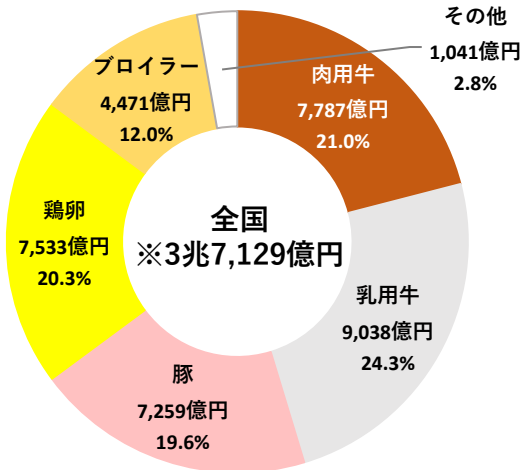


1. 東海の農業・畜産の概要

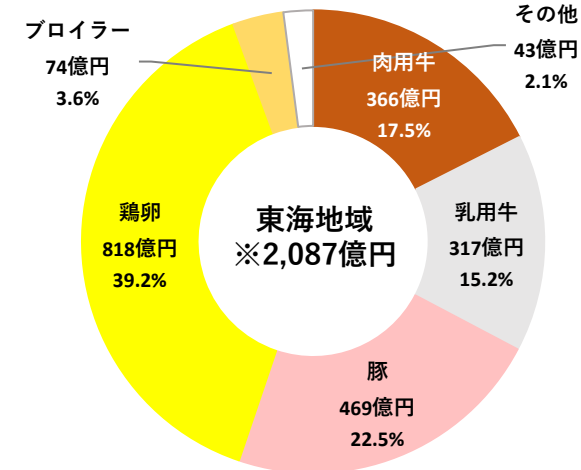
○地域別畜産物産出額【令和5年】



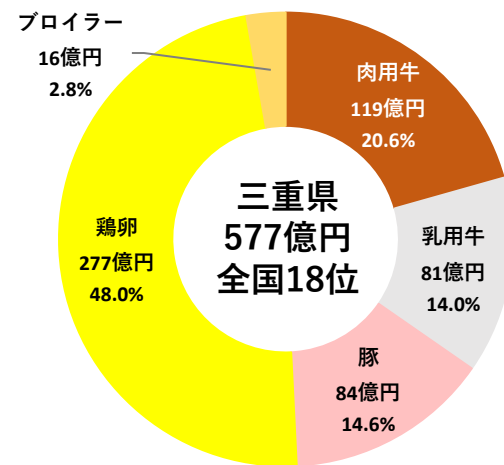
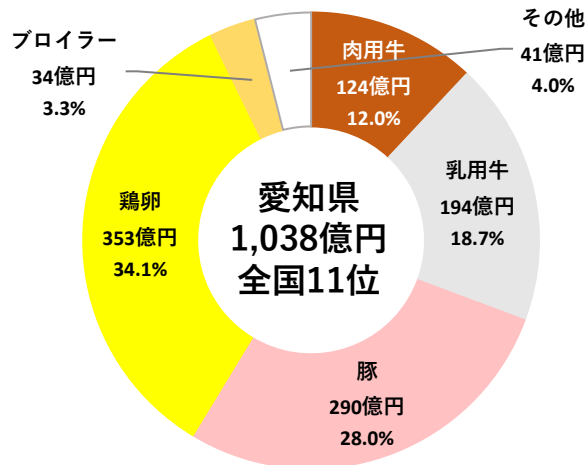
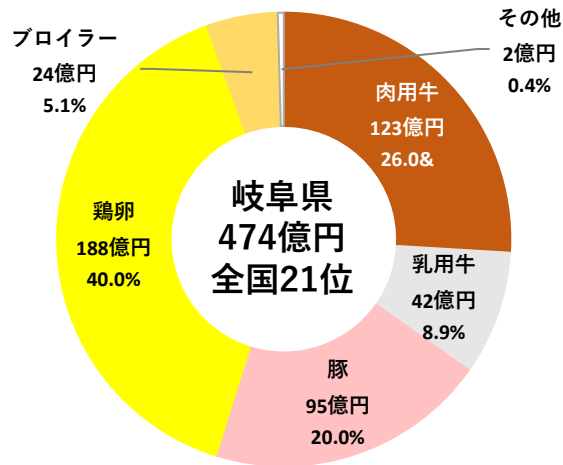
○畜種別産出額【令和5年】



○東海地域内畜種別産出額【令和5年】



○県別畜種別産出額【令和5年】



- ・東海地域の畜産物産出額は、**2,135億円**で、全国の**5.7%**を占める
- ・畜種別では、全国と比べ**鶏卵**と**豚**の割合が高くなっている



1. 東海の農業・畜産の概要

○各種産出額の全国順位（1）（単位：億円）【令和5年】

・畜産全般

順位	都道府県	産出額
1	北海道	7,837
2	鹿児島	3,754
3	宮崎	2,483
4	岩手	1,975
5	千葉	1,501
6	熊本	1,371
7	栃木	1,367
8	茨城	1,353
9	群馬	1,319
10	青森	1,090
11	愛知	1,047
⋮		
18	三重	584
21	岐阜	504
⋮		
	全国	37,685
	平均	801.9

・乳用牛

順位	都道府県	産出額
1	北海道	4,781
2	栃木	472
3	熊本	352
4	群馬	256
5	岩手	255
6	千葉	254
7	茨城	236
8	愛知	194
9	岡山	149
10	宮城	129
⋮		
19	三重	81
⋮		
29	岐阜	42
⋮		
	全国	9,038
	平均	192.3

・肉用牛

順位	都道府県	産出額
1	北海道	1,224
2	鹿児島	1,208
3	宮崎	765
4	熊本	435
5	宮城	253
6	栃木	251
7	長崎	250
8	岩手	249
9	茨城	196
10	兵庫	186
⋮		
18	愛知	124
19	岐阜	123
⋮		
21	三重	119
⋮		
	全国	7,787
	平均	165.8



- ・いずれの産出額も、**愛知県**が最も多い
- ・3県とも、**肉用牛**の産出額は全国的に見て中位程度の立ち位置となっている





1. 東海の農業・畜産の概要

○各種産出額の全国順位（2）（単位：億円）【令和5年】

・豚

順位	都道府県	産出額
1	鹿児島	910
2	北海道	608
3	宮崎	600
4	千葉	519
5	群馬	478
6	茨城	405
7	岩手	388
8	青森	307
9	愛知	290
10	栃木	279
⋮		
22	岐阜	95
23	三重	84
⋮		
	全国	7,259
	平均	154.4

・鶏卵

順位	都道府県	産出額
1	千葉	504
2	茨城	460
3	鹿児島	439
4	岡山	433
5	広島	361
6	愛知	353
7	栃木	348
8	群馬	327
9	兵庫	303
10	静岡	291
11	三重	277
⋮		
19	岐阜	188
⋮		
	全国	7,533
	平均	160.3

・ブロイラー

順位	都道府県	産出額
1	鹿児島	1,067
2	宮崎	827
3	岩手	778
4	青森	233
5	北海道	161
6	熊本	112
7	岡山	108
8	鳥取	104
9	佐賀	101
10	徳島	94
⋮		
21	愛知	34
24	岐阜	24
⋮		
30	三重	16
⋮		
	全国	4,471
	平均	120.5



・前項同様、いずれの産出額も、愛知県が最も多く、特に前項の乳用牛や上記の豚、鶏卵は全国TOP10入りしている





2. 乳用牛

○飼養戸数・飼養頭数・一戸当たり飼養頭数の全国順位【令和7年2月1日時点】

・飼養戸数 (単位：戸)

順位	都道府県	戸数
1	北海道	4,970
2	岩手	650
3	栃木	531
4	熊本	438
5	宮城	349
6	群馬	342
7	千葉	342
8	茨城	236
9	長野	203
10	福島	193
⋮		
12	愛知	186
⋮		
27	岐阜	78
⋮		
44	三重	26
⋮		
	合計	11,300
	平均	240.9

・飼養頭数 (単位：頭)

順位	都道府県	頭数
1	北海道	816,800
2	栃木	51,400
3	熊本	41,900
4	岩手	37,600
5	群馬	31,000
6	千葉	25,200
7	茨城	22,900
8	愛知	17,800
9	岡山	15,100
10	宮城	14,900
⋮		
24	三重	7,040
⋮		
28	岐阜	4,860
⋮		
	合計	1,293,000
	平均	27,512.6

・一戸当たり飼養頭数 (単位：頭/戸)

順位	都道府県	頭数
1	三重	270.8
2	北海道	164.3
3	島根	152.2
4	大分	126.6
5	和歌山	102.0
6	香川	99.6
7	茨城	97.0
8	栃木	96.8
9	愛知	95.7
10	熊本	95.7
⋮		
30	岐阜	62.3
⋮		
	合計	
	平均	114.4

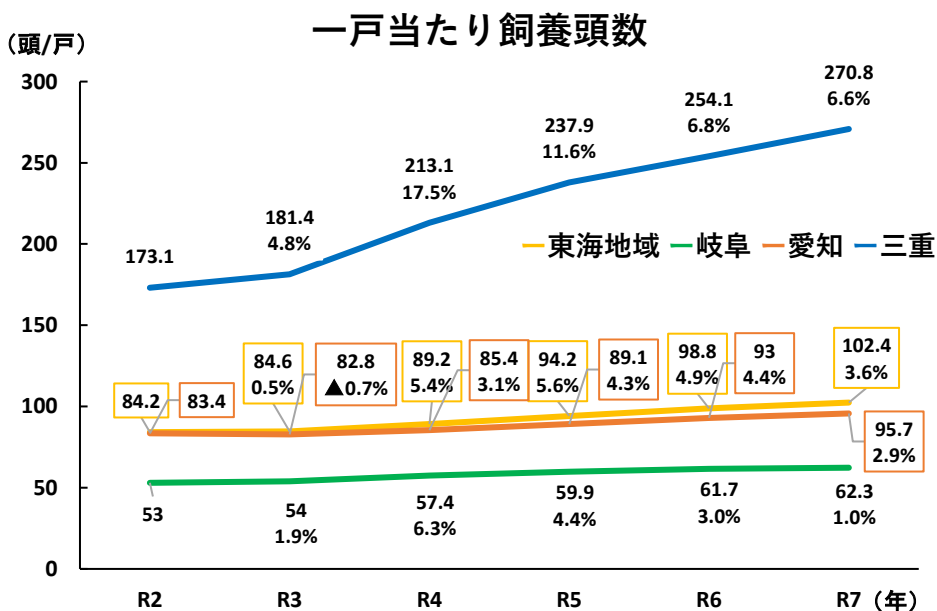
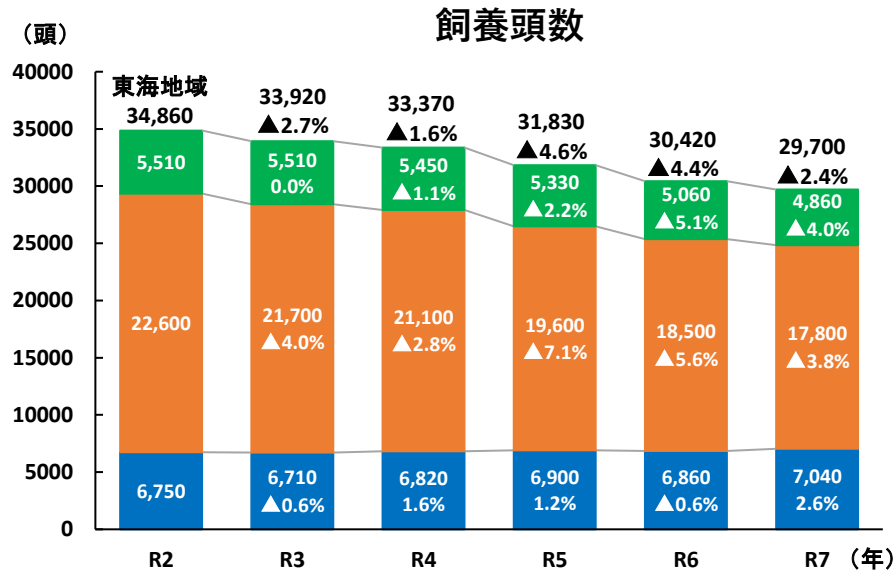
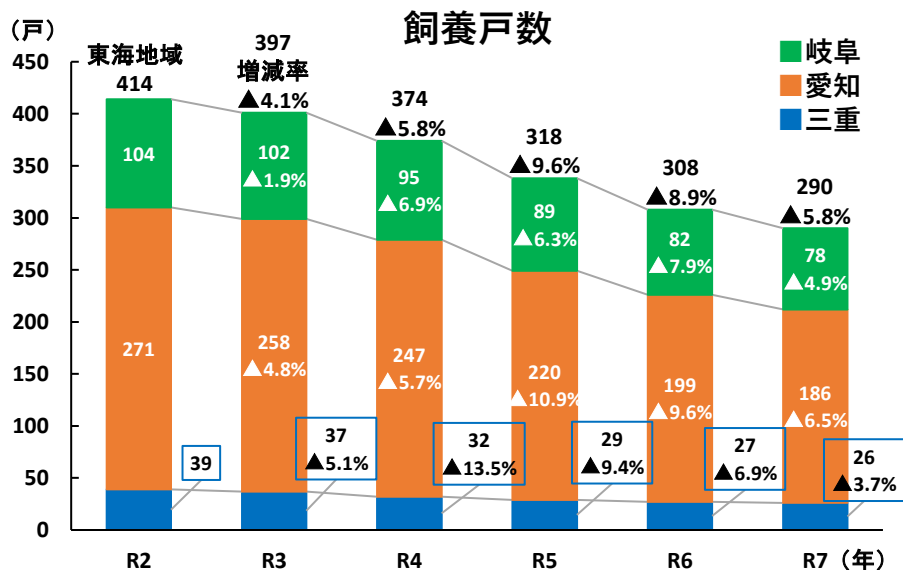
- ・飼養戸数、飼養頭数は、東海3県内で**愛知県**が最も多い
→特に**飼養頭数**は、**全国TOP10**入りしている
- ・**三重県**は、一戸当たりの**飼養頭数**が**全国1位**である
→**一戸当たりの大規模化**が特に進んでいることがわかる





2. 乳用牛

○飼養戸数・飼養頭数・一戸当たり飼養頭数の推移【各年2月1日時点】



- ・ 飼養戸数は3県とも減少
- ・ 飼養頭数は三重県を除いて減少
→特に、飼養戸数の減少率は、飼養頭数より大きい
- ・ 一戸当たりの飼養頭数は年々増加しており、特に三重県で顕著である
→飼養戸数が減少している割には飼養頭数の変動が少ないため

2. 乳用牛

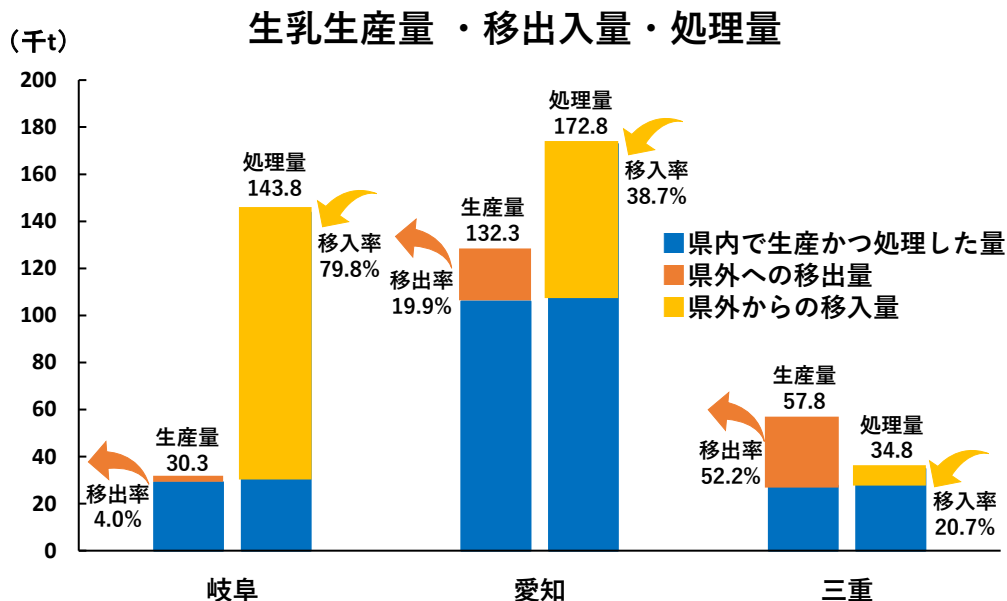
○生乳生産量・処理量（単位：千t）【令和6年】

・生乳生産量

順位	都道府県	生産量(千t)
1	北海道	4,233.1
2	栃木	350.1
3	熊本	256.8
4	群馬	204.5
5	岩手	197.0
6	千葉	185.2
7	茨城	181.1
8	愛知	132.3
9	岡山	106.7
10	宮城	92.3
⋮		
23	三重	57.8
⋮		
29	岐阜	30.3
⋮		
	全国	7,357.5
	平均	156.5

・生乳処理量

順位	都道府県	処理量(千t)
1	北海道	3,711.5
2	茨城	293.5
3	神奈川	292.4
4	千葉	193.0
5	熊本	189.7
6	栃木	177.8
7	愛知	172.8
8	福岡	153.2
9	群馬	150.4
10	岩手	146.7
⋮		
12	岐阜	143.8
⋮		
26	三重	34.8
⋮		
	合計	7,178.1
	平均	188.9



- ・ **岐阜県**と**愛知県**の**生乳処理量**は、**生産量**と比較して多くなっている（特に**岐阜県**で顕著）
 → 県外からの**移入量**が多いことが要因（東海地域全体での**生乳処理量**の内、**約46%**を県外から移入）
 → いずれの県も、**北海道**からの移入が一番多い



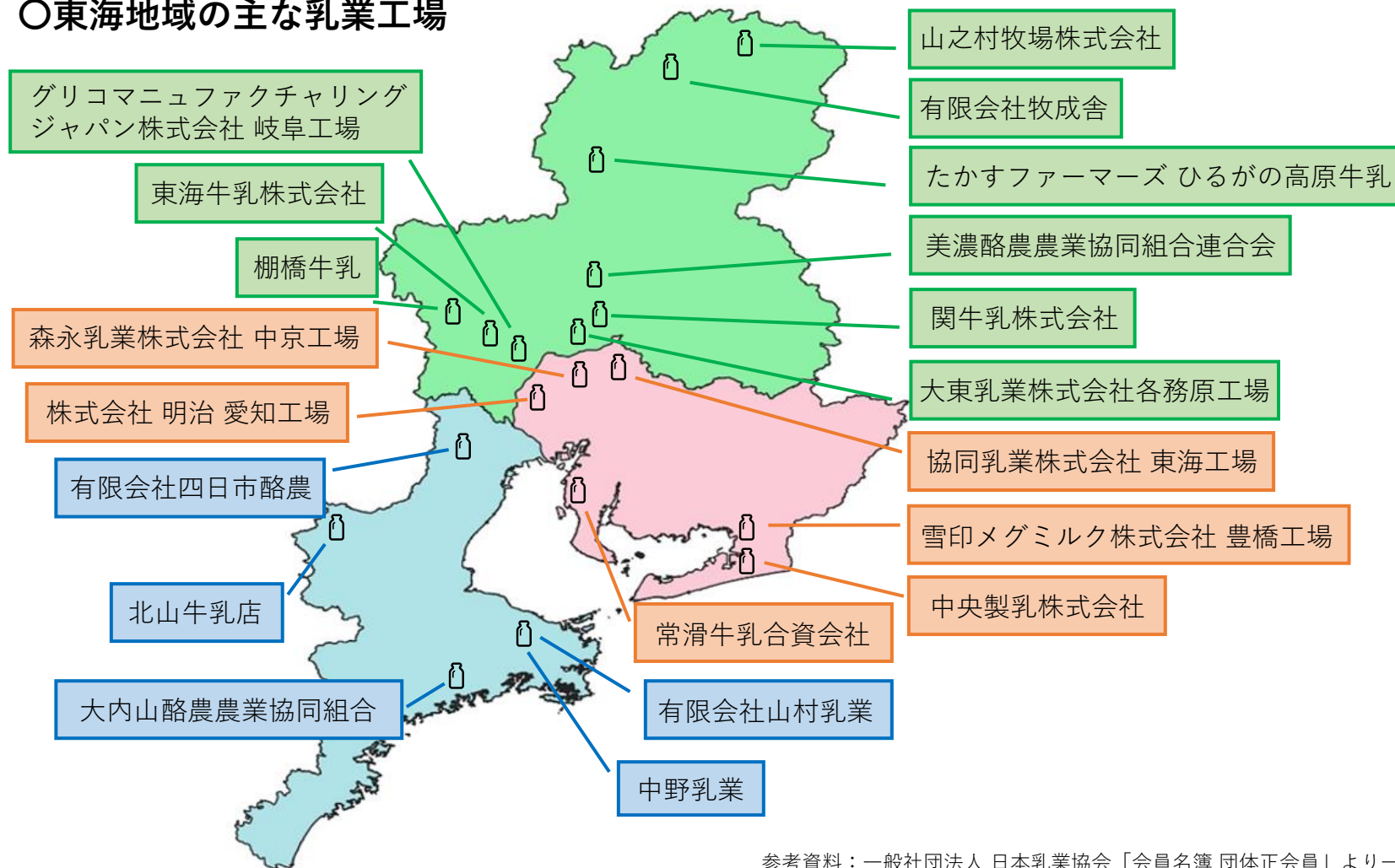
2. 乳用牛

○東海地域の乳業工場【令和6年12月31日時点】

・東海地域には、牛乳等製造工場が**24工場**、乳製品製造工場が**18工場**ある

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計調査」

○東海地域の主な乳業工場



2. 乳用牛

○牛乳に関するキャンペーン・イベントなど

「父の日に牛乳（ちち）を贈ろう！キャンペーン」-東海農政局長への牛乳贈呈-

- ・酪農に従事する青年・女性で組織する**全国酪農青年女性会議**で、平成18年度より**牛乳の消費拡大**を図るため毎年キャンペーンを実施している（令和7年度キャンペーン活動期間は、※**牛乳月間**である6月1日から6月30日）
- ・このキャンペーンの一環として、令和7年6月4日、中部6県（**岐阜**、**愛知**、**三重**、富山、石川、静岡）の中部酪農青年女性会議から、日々忙しく働くお父さんたちの代表として**東海農政局長**に**牛乳**が贈呈された

○イベントの様子はこちらから！→[「父の日に牛乳（ちち）を贈ろう！キャンペーン」-東海農政局長への牛乳贈呈-：東海農政局](#)

※牛乳月間とは？

・世界での動き

→酪農の盛んな地域では、新しい草が伸びるころから放牧を開始し、牛は思う存分青草を食べる生命力があふれるこの時期、ミルク、これらをもたらず命や自然、働く人々に感謝するお祭りが行われるこれより、平成13年に**FAO（国連食糧農業機関）**が6月1日を「**世界牛乳の日**」（**World Milk Day**）と提唱



・日本での動き

→平成19年に**日本酪農乳業協会（現一般社団法人Jミルク）**が6月1日を「**牛乳の日**」と定め、6月を「**牛乳月間**」と定めた

参考：一般社団法人Jミルク「世界牛乳の日・牛乳月間」

「牛乳でスマイルプロジェクト」

- ・令和4年6月、**農林水産省**が、**一般社団法人Jミルク**とともに立ち上げたプロジェクト
- ・**牛乳乳製品**を食事に取り入れることで、笑顔になってほしいというメッセージが込められている
- ・**酪農、乳業関係者**のみならず、様々な**企業、団体、自治体**など、幅広い参加者に加わっていただき、共通ロゴマークによる一体感を持って、更なる**牛乳乳製品の消費拡大**に取り組む



○プロジェクトの詳細は、農林水産省「牛乳でスマイルプロジェクト」をご覧ください。

3. 肉用牛

○飼養戸数・飼養頭数・一戸当たり飼養頭数の全国順位【令和7年2月1日時点】

・飼養戸数 (単位：戸)

順位	都道府県	戸数
1	鹿児島	5,530
2	宮崎	4,000
3	岩手	2,910
4	宮城	2,180
5	沖縄	2,060
6	北海道	2,030
7	熊本	1,900
8	長崎	1,830
9	福島	1,330
10	兵庫	976
⋮		
19	岐阜	398
⋮		
23	愛知	306
⋮		
32	三重	134
⋮		
	合計	34,000
	平均	723.7

・飼養頭数 (単位：頭)

順位	都道府県	頭数
1	北海道	544,700
2	鹿児島	360,400
3	宮崎	248,400
4	熊本	133,200
5	長崎	91,100
6	栃木	83,500
7	岩手	81,800
8	宮城	76,100
9	沖縄	75,300
10	兵庫	57,200
⋮		
18	愛知	40,900
⋮		
21	岐阜	33,000
⋮		
23	三重	30,500
⋮		
	合計	2,595,000
	平均	55,211

・一戸当たり飼養頭数 (単位：頭/戸)

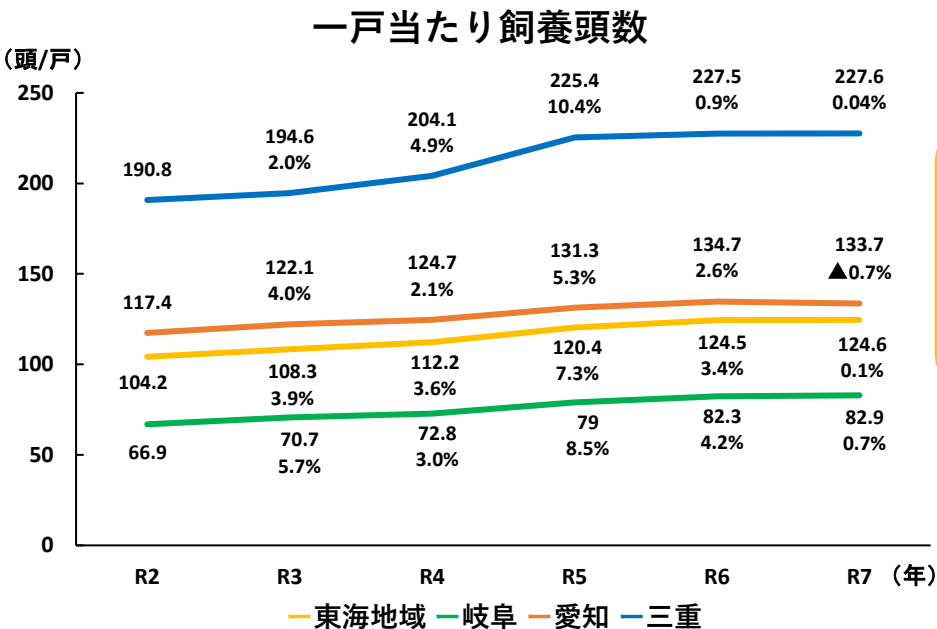
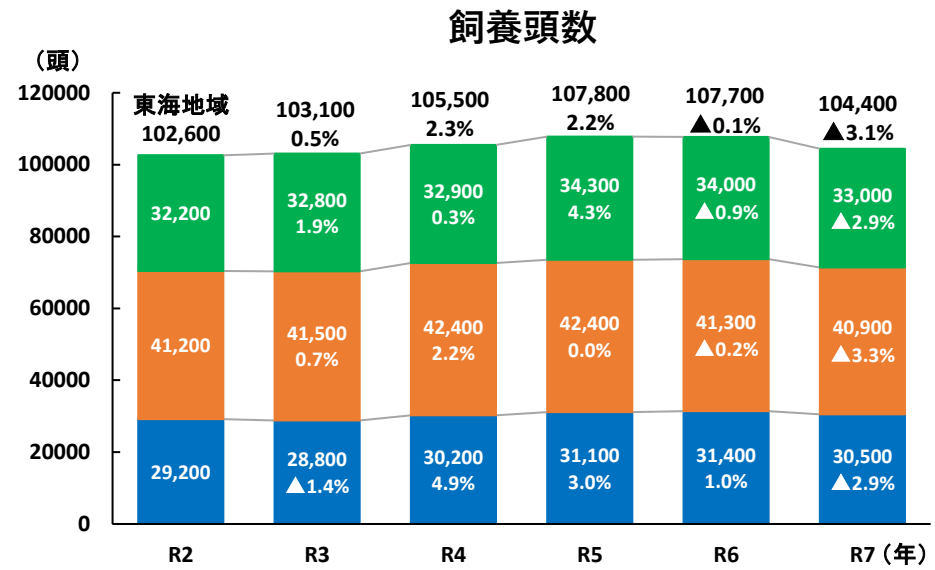
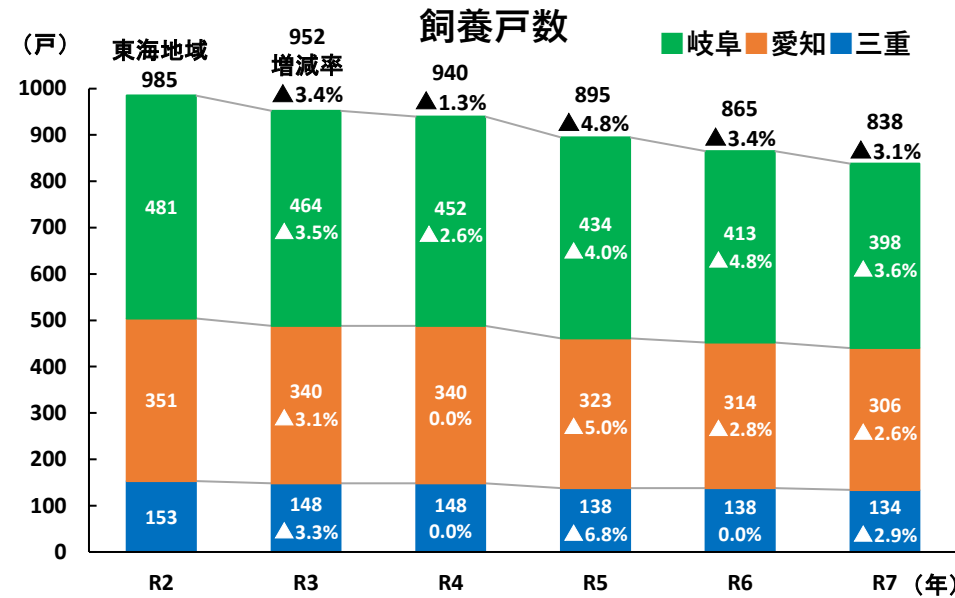
順位	都道府県	頭数
1	滋賀	272.0
2	北海道	268.3
3	三重	227.6
4	静岡	197.9
5	千葉	193.3
6	埼玉	164.8
7	香川	152.5
8	福岡	144.6
9	徳島	139.5
10	愛知	133.7
⋮		
24	岐阜	82.9
⋮		
	合計	
	平均	76.3

・愛知県、三重県の一戸当たり飼養頭数は、全国TOP10入りしている



3. 肉用牛

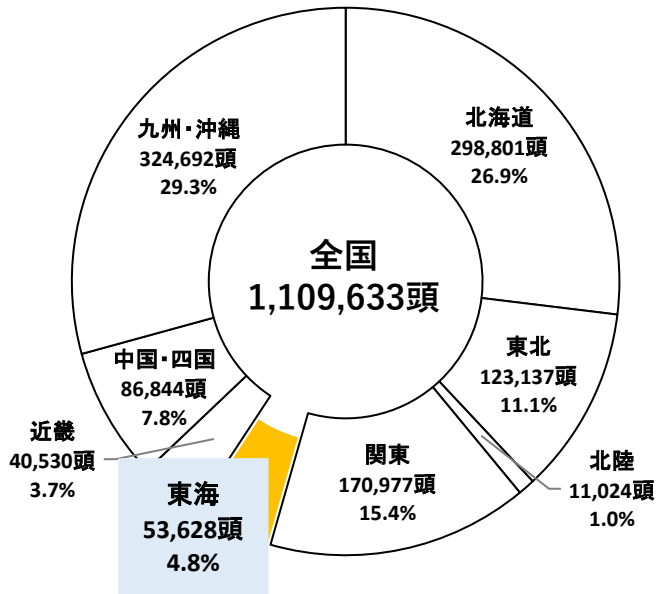
○飼養戸数・飼養頭数・一戸当たり飼養頭数の推移【各年2月1日時点】



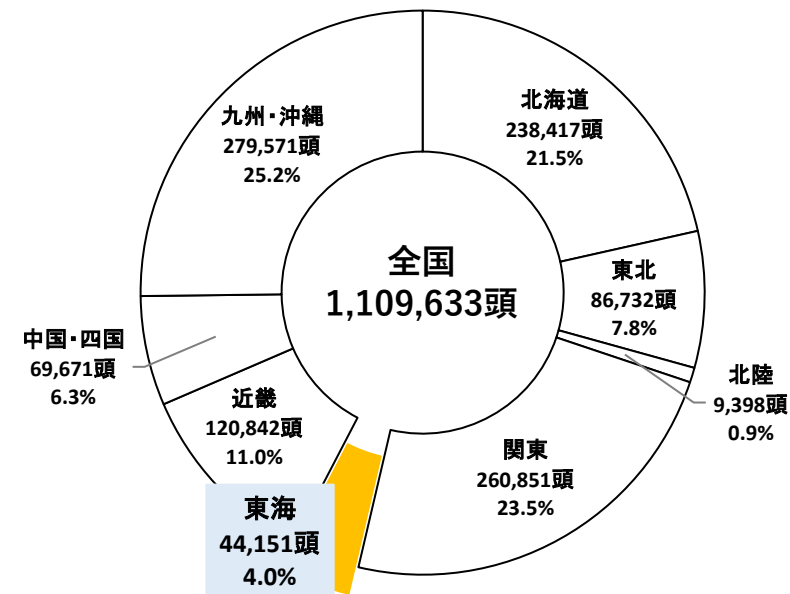
- ・飼養戸数は**減少**しているが、飼養頭数は横ばいである
- ・一戸当たりの飼養頭数は**微増**している
- ・乳用牛と同様、**三重県**では特に一戸当たりの飼養頭数が多くなっている

3. 肉用牛

○地域別成牛出荷頭数【令和6年】



○地域別成牛と畜頭数【令和6年】



○出荷頭数全国順位（単位：頭）

順位	都道府県	出荷頭数
1	北海道	298,801
2	鹿児島	110,766
3	宮崎	83,385
4	栃木	44,118
5	熊本	43,436
6	群馬	31,511
7	茨城	31,032
8	岩手	29,108
9	長崎	28,323
10	青森	26,402
⋮		
12	愛知	24,936
⋮		
20	三重	15,786
21	岐阜	12,906
⋮		
	合計	1,109,633
	平均	23,609

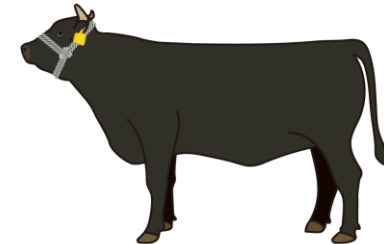
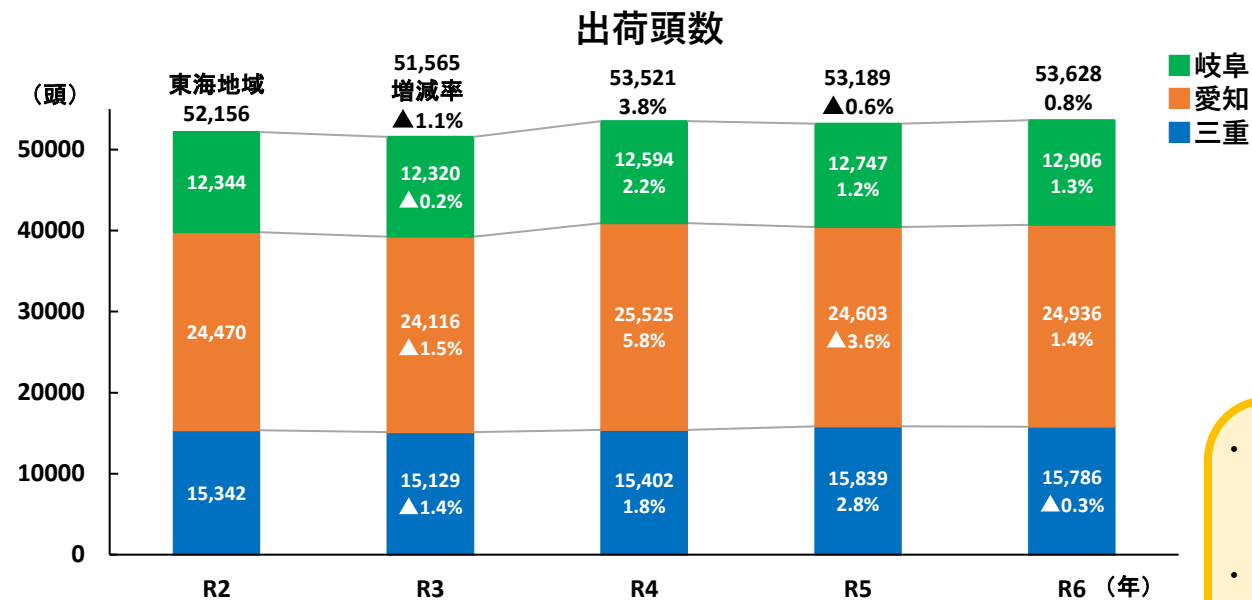
○と畜頭数全国順位（単位：頭）

順位	都道府県	と畜頭数
1	北海道	238,417
2	鹿児島	99,387
3	東京	89,013
4	兵庫	69,303
5	福岡	54,926
6	宮崎	52,494
7	茨城	46,376
8	埼玉	35,873
9	熊本	35,450
10	青森	27,257
⋮		
18	愛知	17,284
⋮		
22	岐阜	16,117
⋮		
25	三重	10,750
⋮		
	合計	1,109,633
	平均	24,122

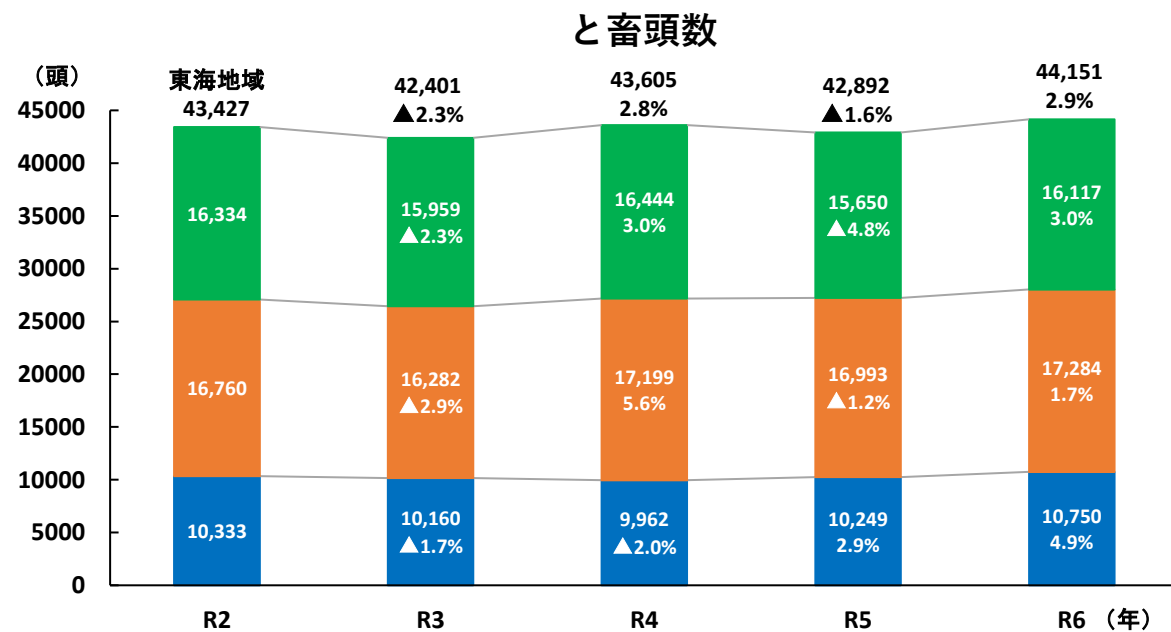
・ 出荷頭数及びと畜頭数は、どちらも**愛知県**が一番多い
 ・ 全国的には、東海3県は約4.0%の出荷、と畜を行っている

3. 肉用牛

○年間出荷頭数及びと畜頭数推移【令和6年】



- ・ 出荷頭数及びと畜頭数は、横ばいで推移している
- ・ **岐阜県**では、出荷頭数に対し、県内でのと畜頭数が多い
- ・ **愛知県**と**三重県**では、出荷頭数に対し、県内でのと畜頭数が少ない

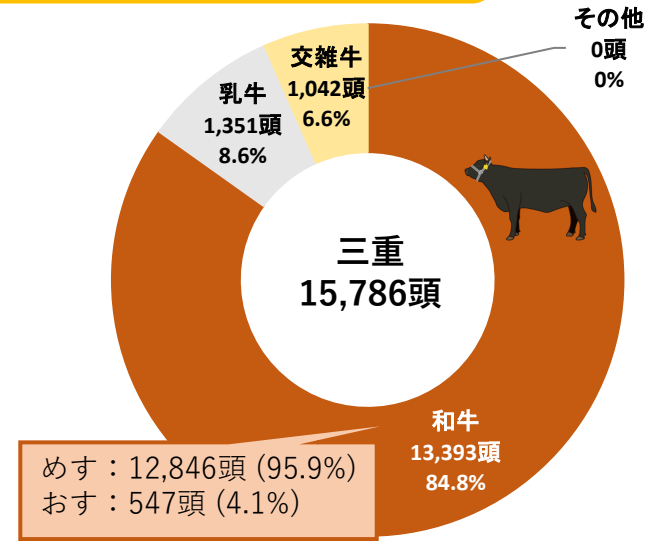
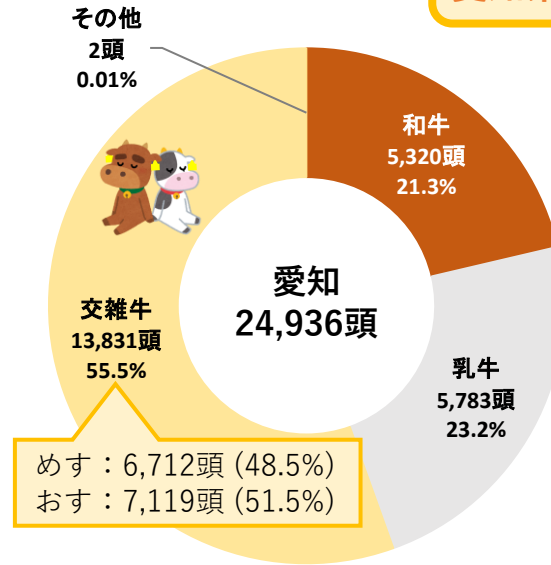
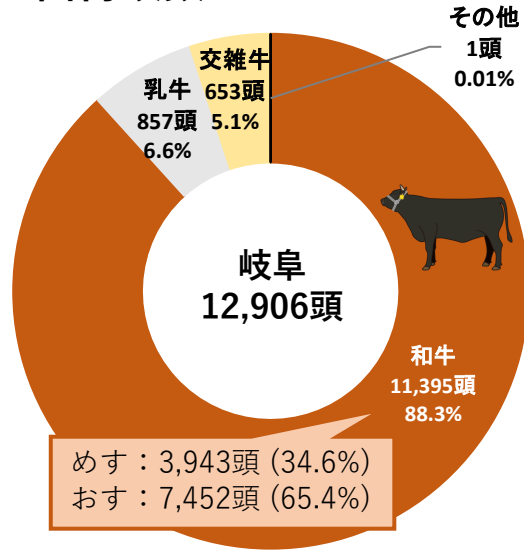


3. 肉用牛

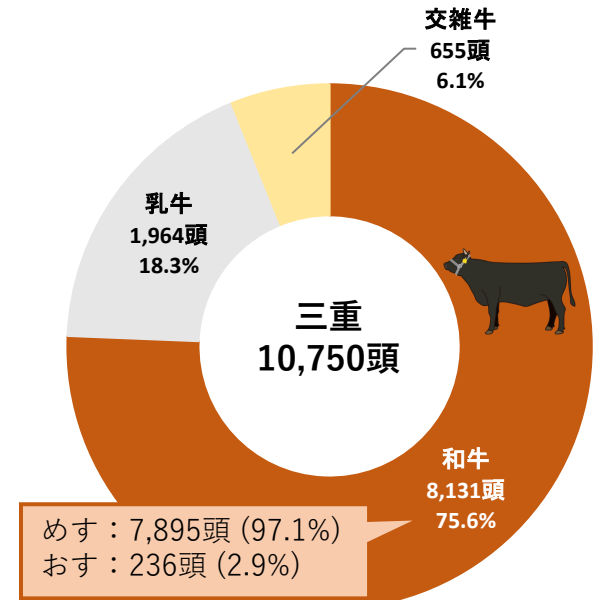
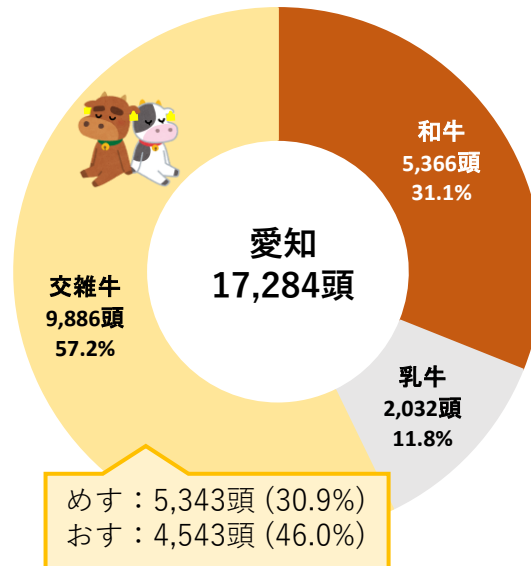
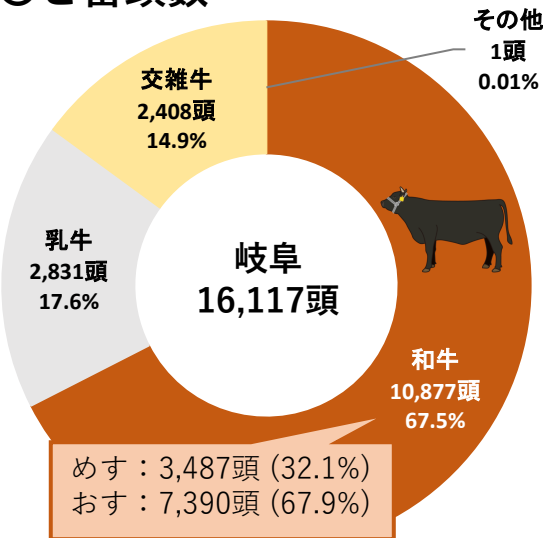
○各県別出荷・と畜頭数【令和6年】

○出荷頭数

岐阜県・三重県→和牛メイン
愛知県→交雑牛が半数以上を占める



○と畜頭数



乳用牛・肉用牛 <牛トレーサビリティ制度について>

<まず、食品のトレーサビリティとはなにか？ = **食品の移動を把握できること**>



・各事業者が食品を取扱った際の記録を**作成・保存**することで、**食中毒**などの健康に影響を与える**事故等**が発生した際に、**問題のある食品がどこから来たのか、どこに行ったのか**を調べることができる（参考：農林水産省「トレーサビリティ関係」）

<では、牛トレーサビリティ制度とは？>

・ 管理者

- ・ 国内で飼養される原則すべての牛に**個体識別番号**が印字された**耳標**を装着する
- ・ 出生・異動・と畜・死亡の届出を実施
- ・ 個体識別番号の管理・伝達

・ と畜者（食肉市場・食肉センター等）

- ・ と畜情報の届出を実施
- ・ 個体識別番号の表示・伝達
- ・ 引渡し記録・保存

・ 販売業者（卸売業者・小売店）

- ・ 仕入れ・販売の記録、保存
- ・ 「特定牛肉」（枝肉、部分肉、小売段階における精肉）への**個体識別番号の表示**（消費者へ情報提供）

・ 特定料理(※)提供事業者

- ・ 仕入れの記録、保存
- ・ 個体識別番号の表示（メニュー等）（消費者へ情報提供）

※：主として「焼き肉」「しゃぶしゃぶ」「すき焼き」「ステーキ」を提供している業者

BSE(牛海綿状脳症)のまん延防止措置の的確な実施を図るため、牛を**個体識別番号**により一元管理し、生産から流通の各段階において**正確に番号を伝達**することで、**消費者**に対して**個体識別番号の提供を促進**するとともに、**問題発生時の迅速な追跡や回収が可能**となる

（参考：農林水産省「牛・牛肉のトレーサビリティ」）

4. 豚

○飼養戸数・飼養頭数・一戸当たり飼養頭数の全国順位【令和6年2月1日時点】

・飼養戸数 (単位：戸)

順位	都道府県	戸数
1	鹿児島	387
2	宮崎	261
3	千葉	216
4	茨城	208
5	北海道	186
6	沖縄	174
7	群馬	163
8	愛知	138
9	熊本	126
10	宮城	88
⋮		
24	三重	40
⋮		
28	岐阜	26
⋮		
	合計	3,130
	平均	67

・飼養頭数 (単位：頭)

順位	都道府県	頭数
1	鹿児島	1,200,000
2	北海道	752,200
3	宮崎	721,900
4	群馬	610,800
5	千葉	580,700
6	岩手	459,100
7	茨城	424,000
8	熊本	347,900
9	青森	334,800
10	栃木	324,900
⋮		
12	愛知	287,400
⋮		
22	三重	98,900
⋮		
24	岐阜	91,300
⋮		
	合計	8,798,000
	平均	187,184.00

・一戸当たり飼養頭数 (単位：頭/戸)

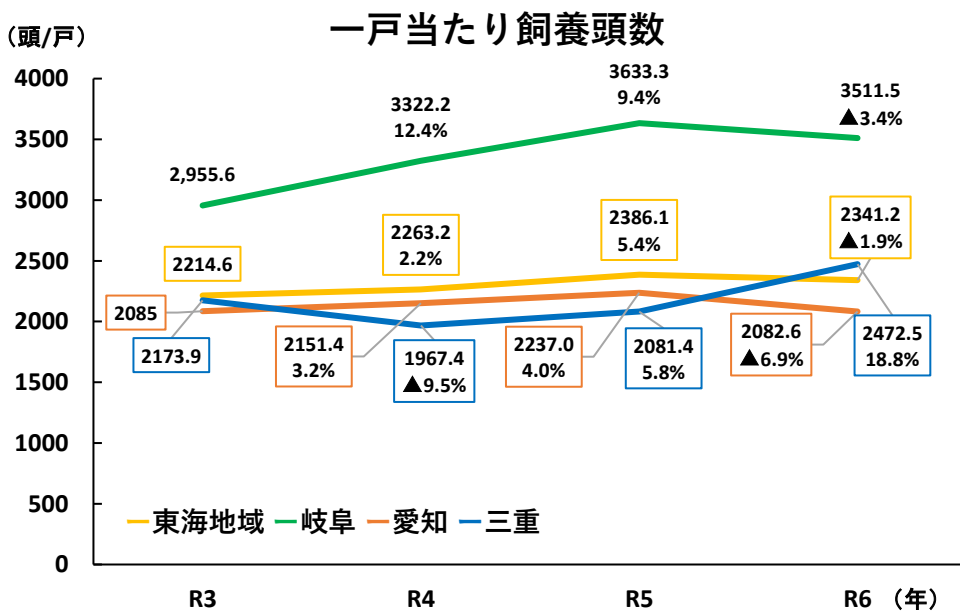
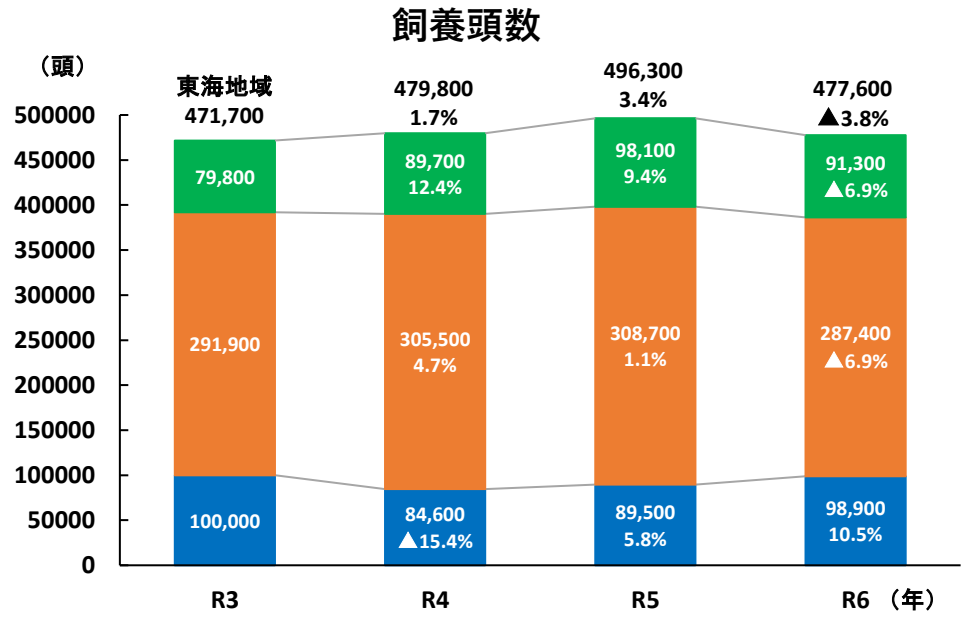
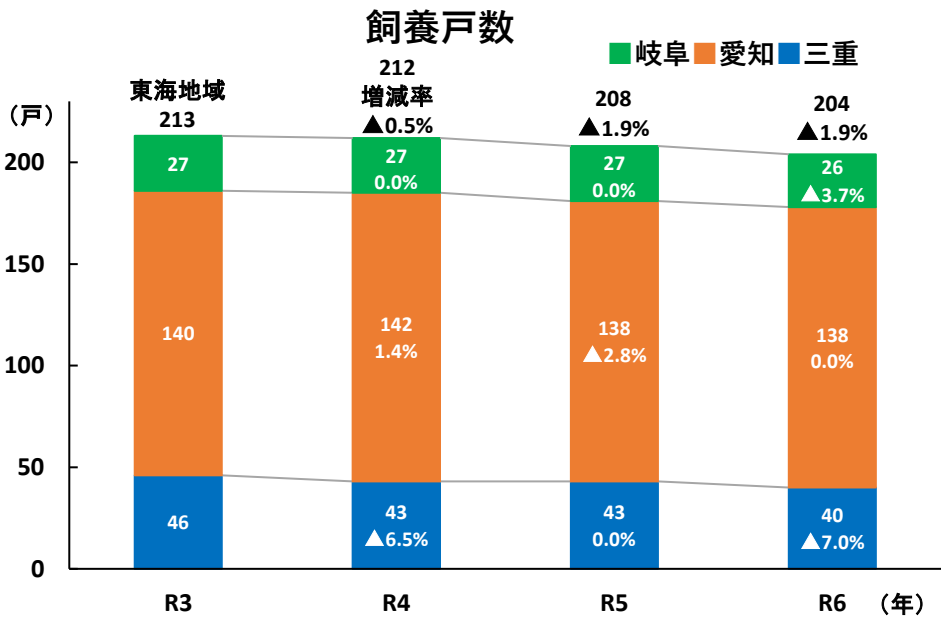
順位	都道府県	一戸当たり
1	島根	7,840.0
2	青森	6,975.0
3	広島	6,150.0
4	岩手	5,531.3
5	山口	5,350.0
6	秋田	4,604.5
7	鳥取	4,414.3
8	大分	4,140.5
9	北海道	4,044.1
10	栃木	3,962.2
⋮		
12	岐阜	3,511.5
⋮		
22	三重	2,472.5
⋮		
25	愛知	2,082.6
⋮		
	合計	
	平均	2810.9

・愛知県は、東海地域の中で飼養戸数及び飼養頭数が最も多く全国的に見ても上位を占めている

参考資料：農林水産省「畜産統計調査」

4. 豚

○飼養戸数・飼養頭数・一戸当たり飼養頭数の推移【各年2月1日時点】



- ・飼養戸数は年々減少しているが、飼養頭数はほぼ横ばいで推移している
- ・岐阜県は、一戸当たりの飼養頭数が東海地域の中で一番多く、令和4・5年にかけて特に増加している
- ・三重県では、令和6年にかけて一戸当たりの飼養頭数が特に増加している

参考資料：農林水産省「畜産統計調査」
 ※令和2年は、2020年農林業センサス実施年のため調査を実施していない

4. 豚

○用途別飼養頭数全国順位【令和6年2月1日時点】及びと畜頭数全国順位【令和6年】

・子取り用めす豚 (単位：頭)

順位	都道府県	子取りめす
1	鹿児島	112,300
2	北海道	66,200
3	宮崎	62,400
4	群馬	51,300
5	千葉	46,500
6	岩手	43,500
7	茨城	34,700
8	秋田	29,200
9	熊本	28,600
10	栃木	26,400
11	愛知	25,600
⋮		
24	三重	6,580
⋮		
26	岐阜	6,010
⋮		
	合計	758,300
	平均	17,231

・種おす豚 (単位：頭)

順位	都道府県	種雄
1	鹿児島	3,690
2	北海道	1,880
3	茨城	1,780
4	宮崎	1,650
5	群馬	1,550
6	岩手	1,460
7	愛知	1,160
8	千葉	1,130
9	熊本	1,060
10	沖縄	890
⋮		
27	三重	190
⋮		
29	岐阜	140
⋮		
	合計	24,800
	平均	539

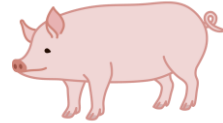
・肥育豚 (単位：頭)

順位	都道府県	肥育
1	鹿児島	856,200
2	北海道	625,400
3	宮崎	607,000
4	群馬	544,700
5	千葉	527,400
6	岩手	385,600
7	茨城	385,200
8	青森	297,600
9	熊本	293,100
10	栃木	290,700
11	愛知	258,900
⋮		
21	三重	88,300
22	岐阜	84,400
⋮		
	合計	7,362,000
	平均	156,629

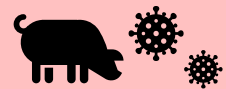
・と畜頭数 (単位：頭)

順位	都道府県	と畜頭数
1	鹿児島	2,572,466
2	北海道	1,407,198
3	青森	1,041,029
4	茨城	1,036,068
5	宮崎	982,403
6	千葉	836,151
7	群馬	723,472
8	長崎	577,399
9	埼玉	568,670
10	神奈川	566,514
11	愛知	535,023
⋮		
26	三重	165,483
⋮		
35	岐阜	88,370
⋮		
	合計	16,259,395
	平均	378,125

・いずれの用途でも、**愛知県**は東海地域の中で最も**飼養頭数**が多いかつ、全国的にみても**飼養頭数が上位**であり、養豚が盛んであるといえる



参考資料：農林水産省「畜産統計調査」、「畜産物流通調査」



4. 豚 < 豚熱 (CSF) ・ アフリカ豚熱 (ASF) について >

○豚熱 (CSF) とは

- ・ 豚熱ウイルスにより起こる豚、いのししの熱性伝染病。強い伝染力と高い致死率が特徴
- ・ 感染豚は唾液、涙、糞尿中にウイルスを排せつ。感染豚や汚染物品等との接触等により感染拡大
- ・ 治療法はない。発生した場合の畜産業界への影響が甚大であるため、家畜伝染病に指定
- ・ 世界各国に分布しているが、北米、オーストラリア、スウェーデン等は清浄化を達成

☆日本国内の養豚農家では、2018年9月から2026年2月までに101事例が発生
(これに伴い、豚熱発生都府県では輸出停止措置がとられているが、相手国の受け入れが確認できた場合、輸出を再開している国・畜産物等がある)

参考：農林水産省「豚熱 (CSF) について」、動物検疫所「豚熱の発生に伴う豚肉等の輸出停止・再開について」

○アフリカ豚熱 (ASF) とは

- ・ ASFウイルスが感染し起こる豚、いのししの発熱・全身の出血性病変を特徴とする致死率の高い伝染病
- ・ 汚染された豚肉や豚肉加工品の豚への給餌や、豚同士の直接・間接的な接触により感染拡大
- ・ 治療法はなく、発生した場合の畜産業界への影響が甚大であるため、家畜伝染病に指定

☆ASFは、日本での発生は確認されていないが、アフリカでは常在的に、ロシア、韓国や台湾などアジアでも発生が確認されているため、日本にも近づいている。海外からの侵入に対し警戒を強め、発生予防に努めることが重要

参考：農林水産省「アフリカ豚熱 (ASF) について」

- ★東アジアで発生していないのは日本のみ！
- ★海外から、肉の入った食品を日本国内に持ち込まないようにしましょう！
- ★帰国後1週間は農場や動物に近づかないようにしましょう！
(服や靴についたウイルスを介しても感染するため)



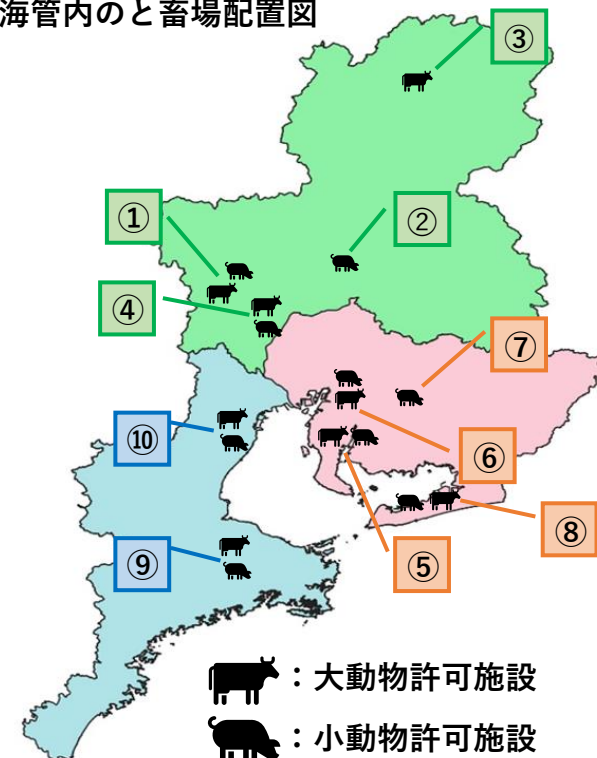
東海管内のと畜場等一覧

	と畜場		食肉卸売市場		
	名称	所在地	名称	所在地	
岐阜	養老町立食肉事業センター	養老町			
	中濃ミート事業協同組合	関市			
	飛騨食肉センター（飛騨ミート地方卸売市場）				高山市
	岐阜市食肉地方卸売市場（岐阜市食肉地方卸売市場）				岐阜市
愛知	半田食肉センター	半田市			
	名古屋市南部と畜場（名古屋市中央卸売市場南部市場）				名古屋市
	豊田食肉センター	豊田市			
	東三河食肉流通センター（地方卸売市場東三河食肉流通センター）				豊橋市
三重	三重県松阪食肉流通センター	松阪市			
	四日市市食肉センター（四日市市食肉地方卸売市場）				四日市市

	家畜市場	
	名称	所在地
岐阜	全農岐阜県本部関家畜流通センター	関市
	全農岐阜県本部飛騨家畜流通センター	高山市
	岐阜県中央家畜市場	岐阜市
愛知	あいち家畜市場	豊橋市
三重	全農三重県本部松阪家畜市場	松阪市
	全農三重県本部伊賀家畜市場	伊賀市

	と畜場	設置者	大動物許可件数 (頭/日)	小動物許可件数 (頭/日)
岐阜	①養老町立食肉事業センター	市町村	70	290
	②中濃ミート事業協同組合	組合・その他	0	180
	③飛騨食肉センター	組合・その他	76	0
	④岐阜市食肉地方卸売市場	市町村	75	600
愛知	⑤半田食肉センター	組合・その他	12	300
	⑥名古屋市南部と畜場	市町村	100	1000
	⑦豊田食肉センター	組合・その他	0	395
	⑧東三河食肉流通センター	会社	65	1200
三重	⑨三重県松阪市食肉流通センター	会社	100	550
	⑩四日市市食肉センター	市町村	50	350

○東海管内のと畜場配置図



参考資料：厚生労働省「と畜・食鳥検査に関する実態調査の結果について（令和7年8月29日）」
 公益社団法人 日本食肉市場卸売協会「食肉市場のご紹介」
 独立行政法人 家畜改良センター「家畜市場リスト（令和7年7月末時点）」



5. 採卵鶏

○飼養戸数・飼養羽数・一戸当たり飼養羽数の全国順位【令和6年2月1日時点】

・飼養戸数 (単位：戸)

順位	都道府県	戸数
1	愛知	109
2	鹿児島	98
3	千葉	88
4	茨城	78
5	埼玉	63
6	三重	63
7	北海道	56
8	福岡	54
9	長崎	51
10	岡山	48
⋮		
16	岐阜	42
⋮		
	合計	1,640
	平均	35

・飼養羽数 (単位：千羽)

順位	都道府県	羽数
1	千葉	11,186
2	茨城	10,222
3	岡山	7,089
4	鹿児島	7,081
5	愛知	6,618
6	群馬	6,292
7	広島	6,133
8	栃木	5,208
9	兵庫	4,921
10	青森	4,902
11	三重	4,574
12	岐阜	4,542
⋮		
	合計	129,729
	平均	2,760.00

・一戸当たり飼養羽数 (単位：千羽/戸)

順位	都道府県	一戸当たり
1	青森	204.3
2	岩手	188.4
3	広島	153.3
4	岡山	147.7
5	秋田	139.9
6	群馬	136.8
7	茨城	131.1
8	千葉	127.1
9	栃木	121.1
10	兵庫	114.4
11	岐阜	108.1
⋮		
20	三重	72.6
23	愛知	60.7
⋮		
	合計	
	平均	79.1

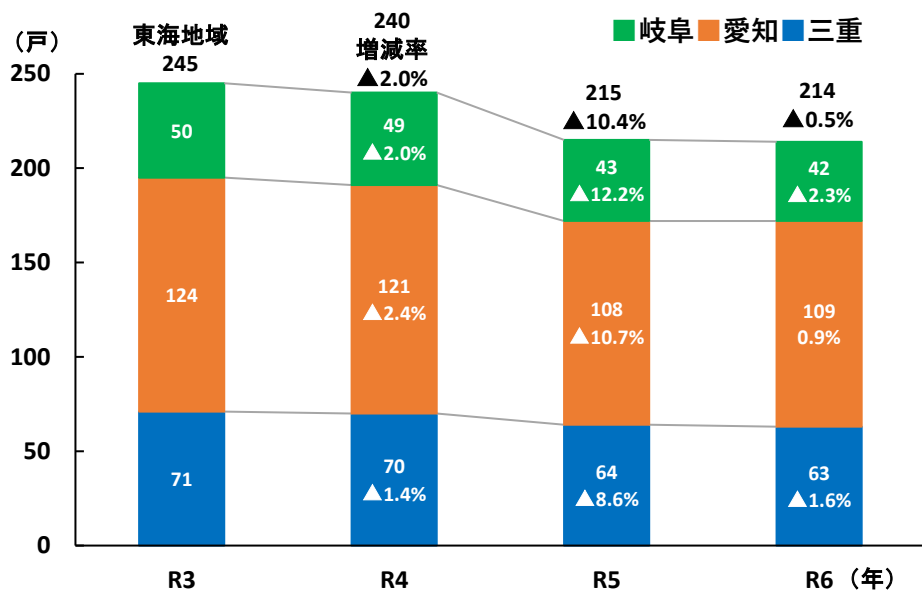
- ・いずれの県も、**飼養戸数**及び**飼養羽数**は、全国的に見て**上位**に位置している
→農業産出額 (P4) でも示したとおり、東海地域では**鶏卵**の生産が盛んにおこなわれている



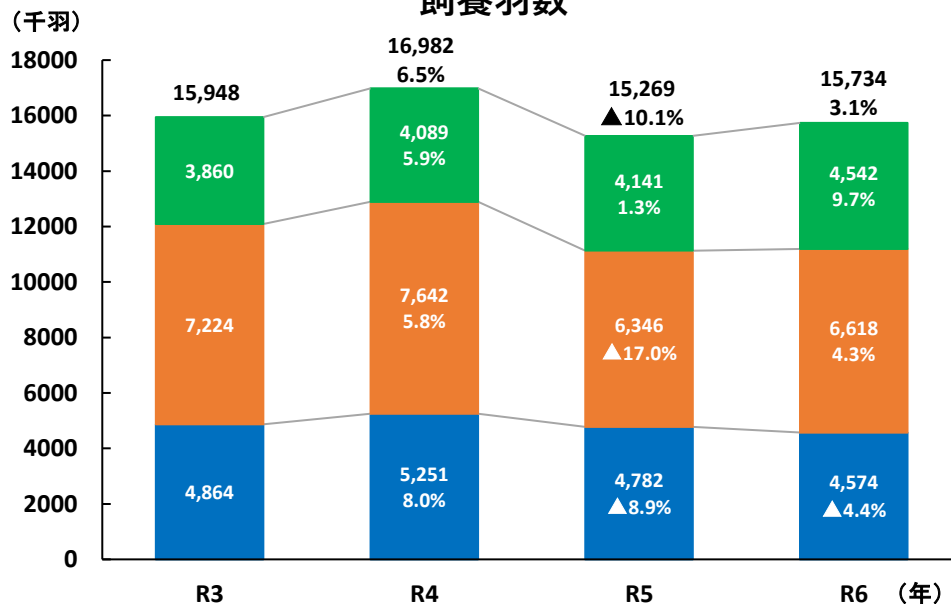
5. 採卵鶏

○飼養戸数・飼養羽数・一戸当たり飼養羽数の推移【各年2月1日時点】

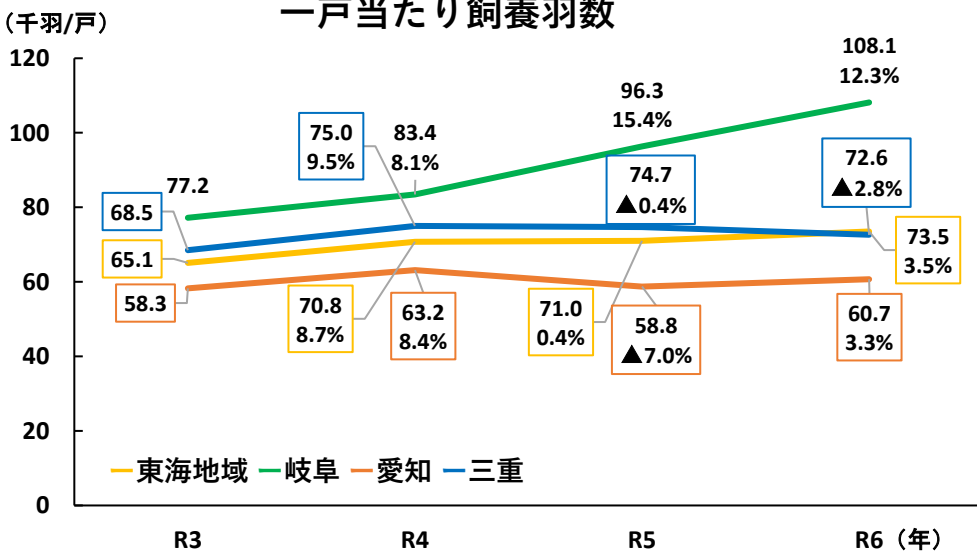
飼養戸数



飼養羽数



一戸当たり飼養羽数



- ・ 飼養戸数は年々**減少**している
- ・ 飼養羽数は、年により変動はあるものの、ほぼ**横ばい**で推移
- ・ 一戸当たりの飼養羽数は、**岐阜県**では年々**増加**しているものの、**愛知県**と**三重県**、東海地域全体としては横ばい

参考資料：農林水産省「畜産統計調査」
 ※令和2年は、2020年農林業センサス実施年のため調査を実施していない

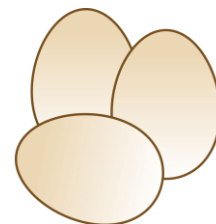
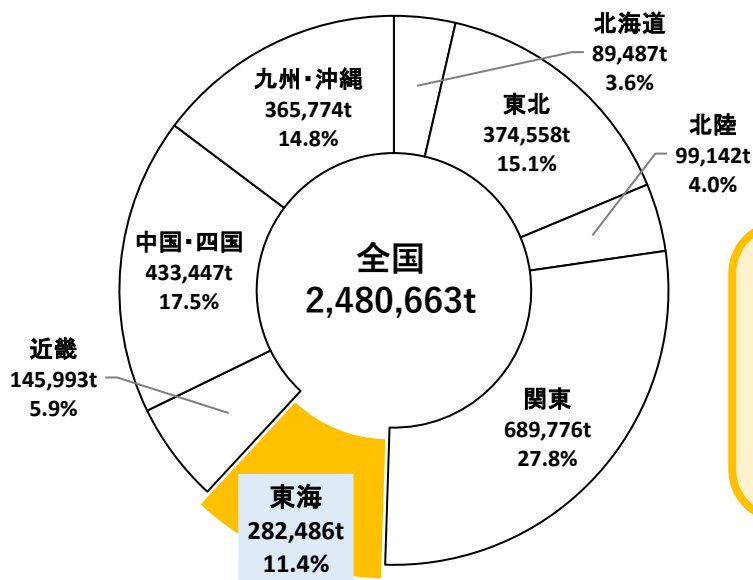


5. 採卵鶏

○鶏卵生産量全国順位 (単位：t) 【令和6年】

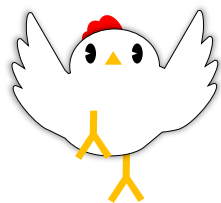
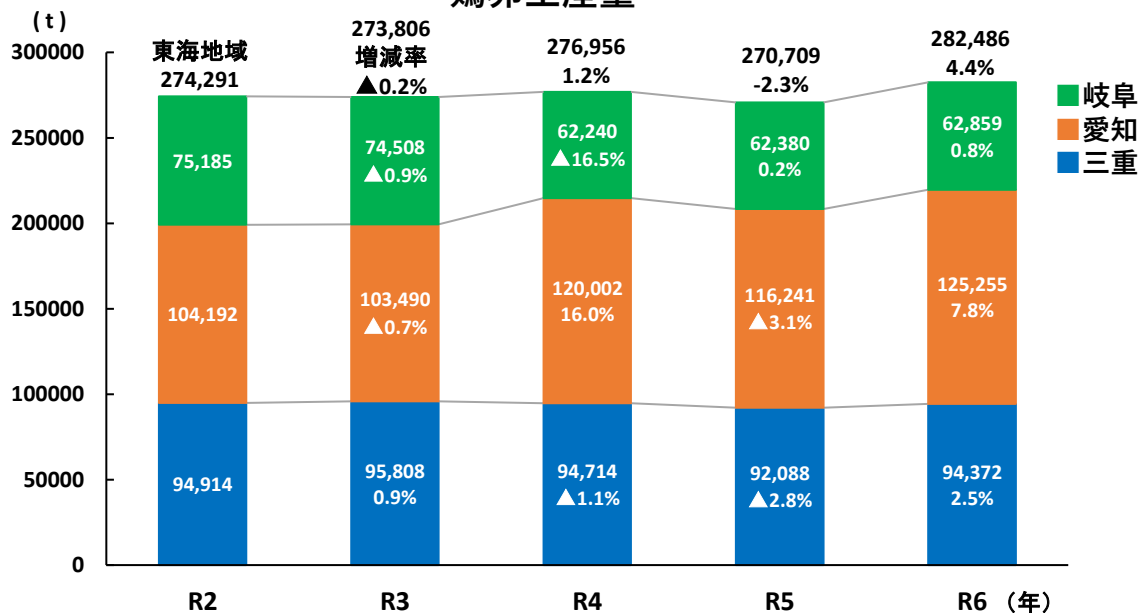
順位	都道府県	生産量
1	鹿児島	184,584
2	千葉	154,400
3	茨城	142,464
4	岡山	134,561
5	広島	130,829
6	群馬	127,180
7	愛知	125,255
8	栃木	105,490
9	青森	105,187
10	兵庫	102,024
⋮		
12	三重	94,372
⋮		
19	岐阜	62,859
⋮		
	合計	2,480,663
	平均	52,780

○地域別鶏卵生産量【令和6年】



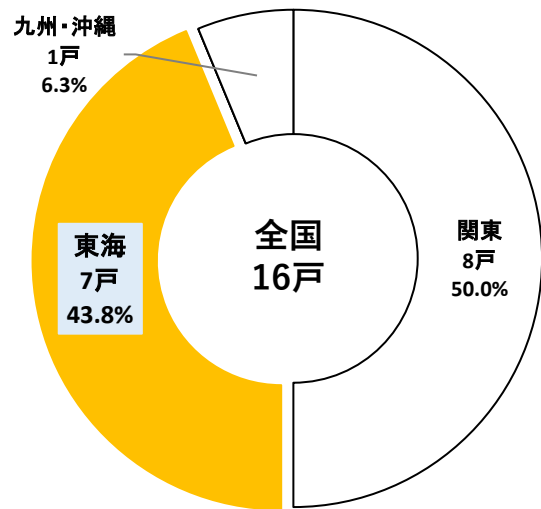
- ・鶏卵生産量は、3県とも全国的に見て上位を占めており、特に愛知県は、TOP10入りしている
- ・東海地域における鶏卵生産量は毎年横ばいで推移している

鶏卵生産量

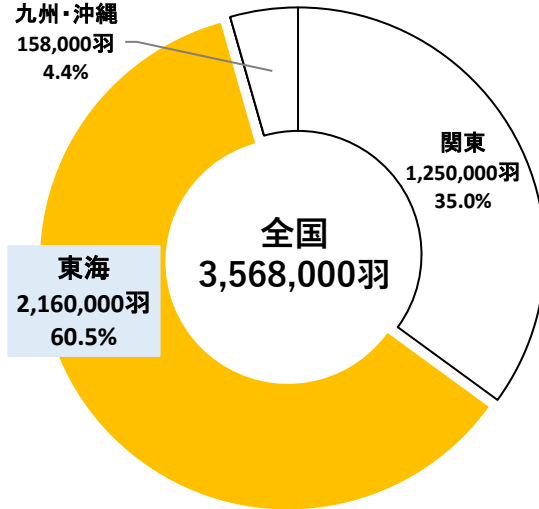


6. うずら

○地域別飼養戸数【令和5年】



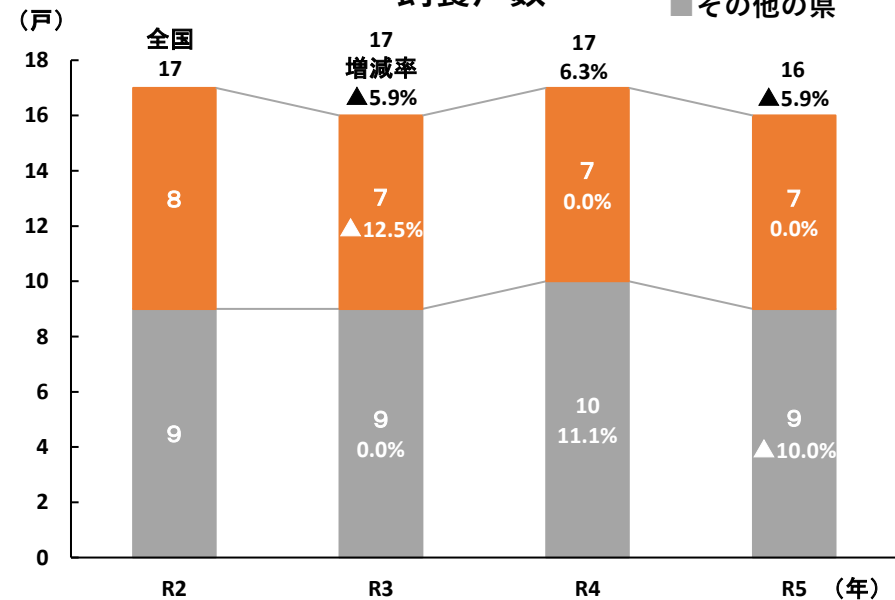
○地域別飼養羽数【令和5年】



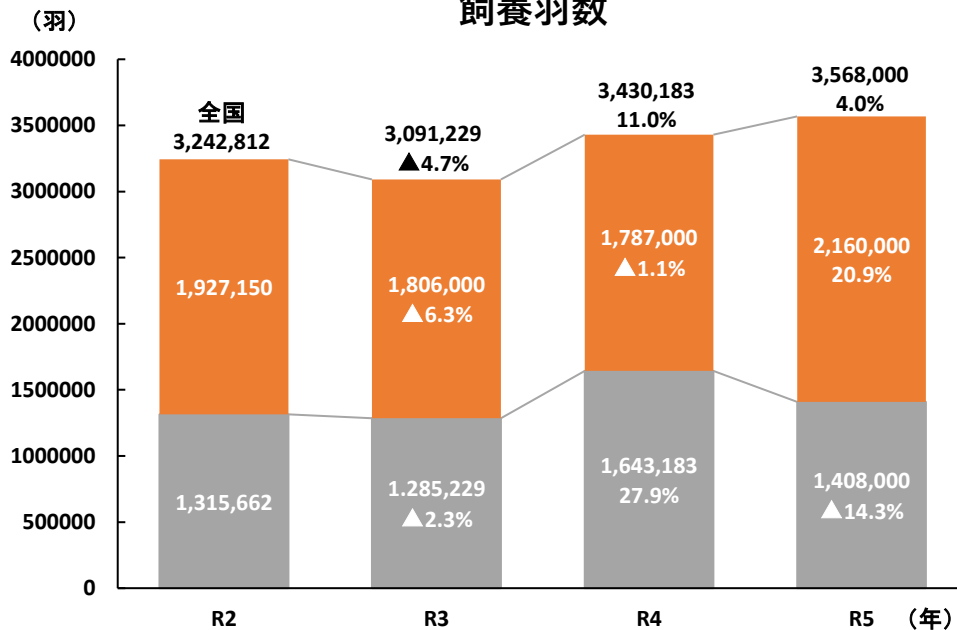
- ・東海3県のうち、**うずら**の大規模農場があるのは**愛知県**のみ
(小規模農家は、**岐阜県**と**三重県**にもある)
- ・飼養羽数は、全国のうち半数以上を占めている
- ・飼養戸数はほぼ横ばいで推移しており、飼養羽数は令和4年から**増加**している



飼養戸数



飼養羽数



参考資料：農林水産省「飼養衛生管理基準に関する過去の情報」(本統計におけるウズラの飼養戸数は、小規模農家である10万羽未満を除いている)

7. 肉用鶏 <ブロイラー>

○飼養戸数・飼養羽数・一戸当たり飼養羽数の全国順位【令和6年2月1日時点】

・飼養戸数 (単位：戸)

順位	都道府県	戸数
1	宮崎	442
2	鹿児島	402
3	岩手	301
4	徳島	134
5	佐賀	62
6	青森	59
7	熊本	56
8	長崎	48
9	大分	42
10	宮城	37
⋮		
26	愛知	12
27	岐阜	11
⋮		
35	三重	8
⋮		
	合計	2,050
	平均	50

・飼養羽数 (単位：千羽)

順位	都道府県	羽数
1	鹿児島	32,003
2	宮崎	28,155
3	岩手	23,604
4	青森	7,639
5	北海道	5,531
6	佐賀	3,929
7	徳島	3,855
8	熊本	3,746
9	長崎	3,297
10	鳥取	3,151
⋮		
22	愛知	962
⋮		
25	岐阜	939
⋮		
28	三重	662
⋮		
	合計	144,859
	平均	3,907.00

・一戸当たり飼養羽数 (単位：千羽/戸)

順位	都道府県	一戸当たり
1	北海道	691.4
2	鳥取	286.5
3	岡山	157.8
4	青森	129.5
5	新潟	120.1
6	島根	94.3
7	岐阜	85.4
8	三重	82.8
9	広島	80.9
10	千葉	80.6
11	愛知	80.2
⋮		
	合計	
	平均	70.7

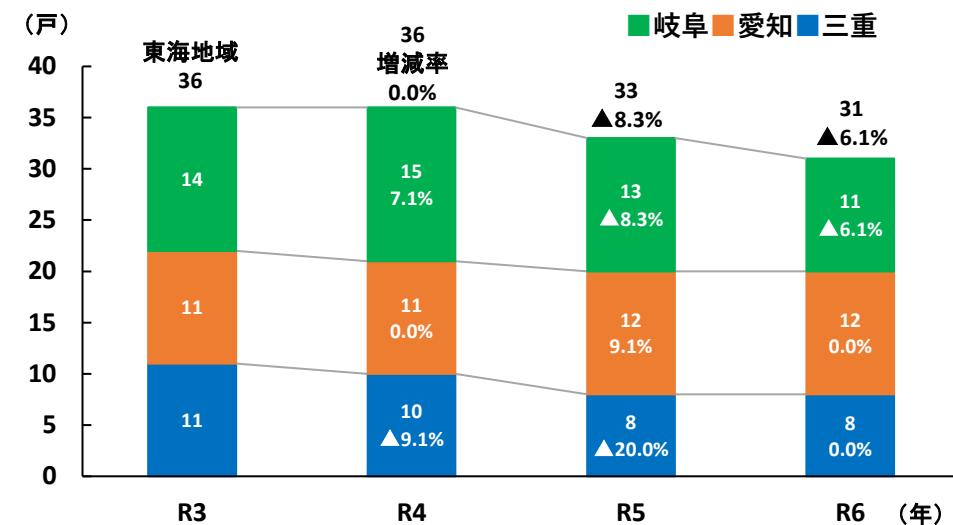
・飼養戸数及び飼養羽数の順位は全国の中で中位であるものの、一戸当たりの飼養羽数では上位に位置しており、東海地域では大規模農場によるブロイラー生産が行われている

参考資料：農林水産省「畜産統計調査」

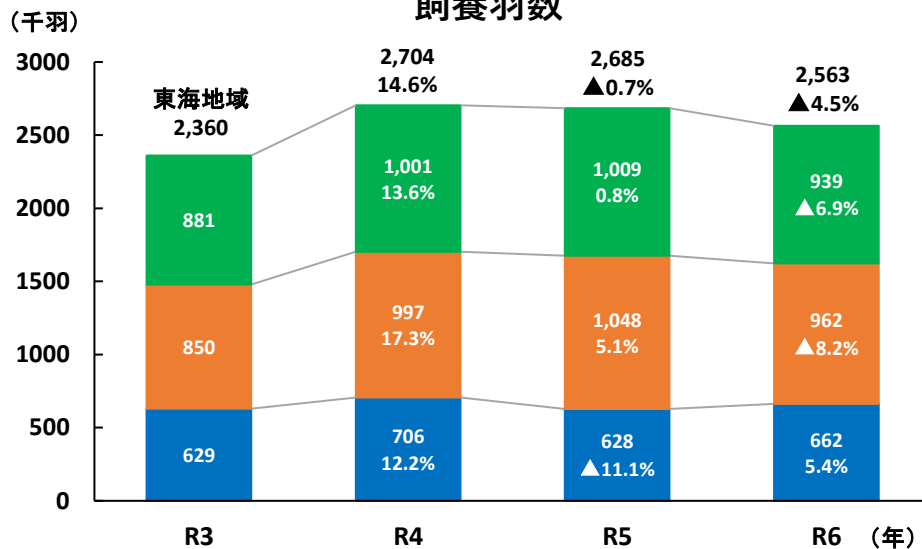
7. 肉用鶏 <ブロイラー>

○飼養戸数・飼養羽数・一戸当たり飼養羽数の推移【各年2月1日時点】

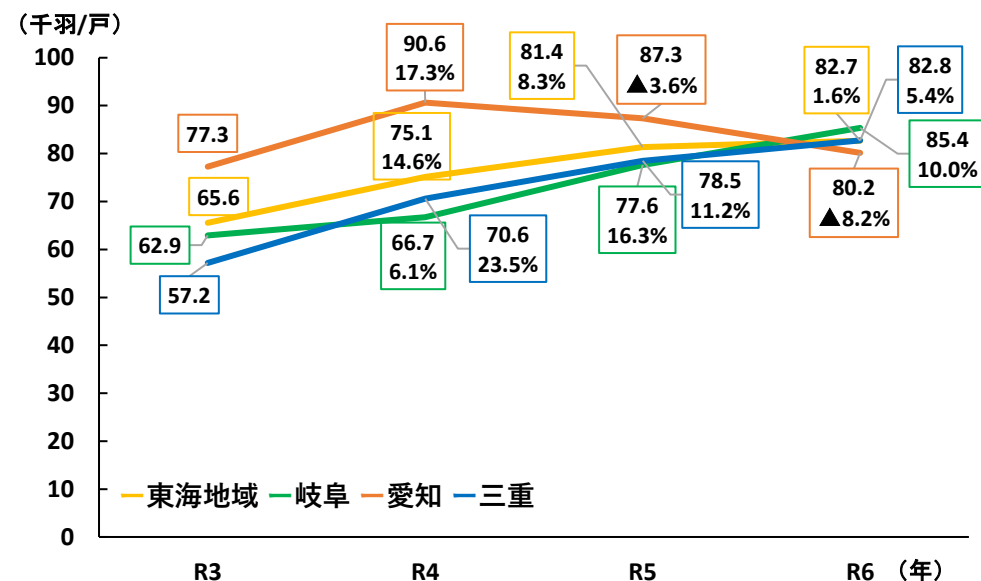
飼養戸数



飼養羽数



一戸当たり飼養羽数

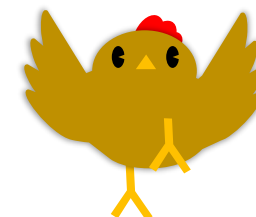
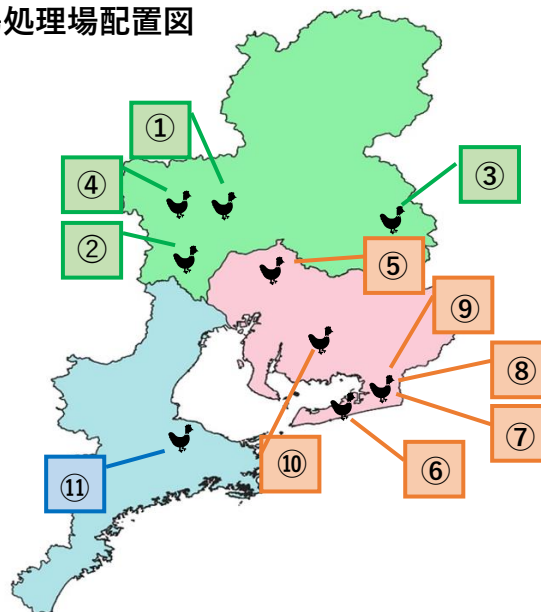
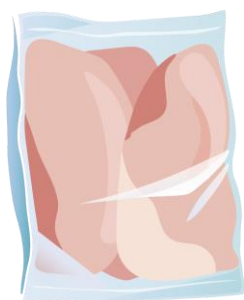


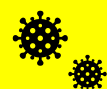
- ・ 飼養戸数は年々減少している
- ・ 飼養羽数及び一戸当たりの飼養羽数は、令和3年から令和4年にかけて増加し、それ以降は横ばいで推移している
- ・ 一戸当たりの飼養羽数は3県とも同程度である

7. 採卵鶏・うずら・肉用鶏 <食鳥処理場>

	名称	区分	所在地	許可羽数 (千羽/年)
岐阜	①岐阜アグリフーズ株式会社	ブロイラー	山県市	3,000
	②コーチンミライズ株式会社	ブロイラー	梅津市	260
	③農事組合法人 東濃ミートセンター	ブロイラー	中津川市	1,997
	④(株)ギフショク	成鶏	岐阜市	1,300
愛知	⑤(株)奥三河どり	ブロイラー	犬山市	3,018
	⑥(株)マルセ	ブロイラー	田原市	941
	⑦一般社団法人シライフーズ	成鶏	豊橋市	4,000
	⑧株式会社丸文牧野商店	成鶏	豊橋市	1,210
	⑨丸トポートリー食品株式会社	ブロイラー	豊橋市	1,829
	⑩六ツ美養鶏加工協同組合	成鶏	岡崎市	4,000
三重	⑪三重チキン株式会社	ブロイラー	松阪市	1,444

○東海管内の食鳥処理場配置図





★家きん（採卵鶏・うずら・肉用鶏）＜鳥インフルエンザについて＞

○鳥インフルエンザとは

- ・ A型インフルエンザが引き起こす鳥の病気
- ・ 家畜伝染病予防法では、家きん（ニワトリ、うずら等）に対する病原性やウイルスの型により、「**高病原性鳥インフルエンザ**」、「**低病原性鳥インフルエンザ**」などに区別している
- ・ **高病原性鳥インフルエンザ**は特に**伝染力が強く、致死率も高い**
- ・ 国内の家きん飼養農場で**高病原性鳥インフルエンザ**、**低病原性鳥インフルエンザ**が発生した場合、**家畜伝染病予防法**に基づき、**国内の生きた家きんがウイルスに感染することを防止**することを目的とし、**防疫措置を実施**する

★日本国内での家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況

- ・ 令和6年シーズンで14道県51事例発生した。
- ・ 令和7年シーズン（今シーズン）は、2026年2月までに**20事例**発生

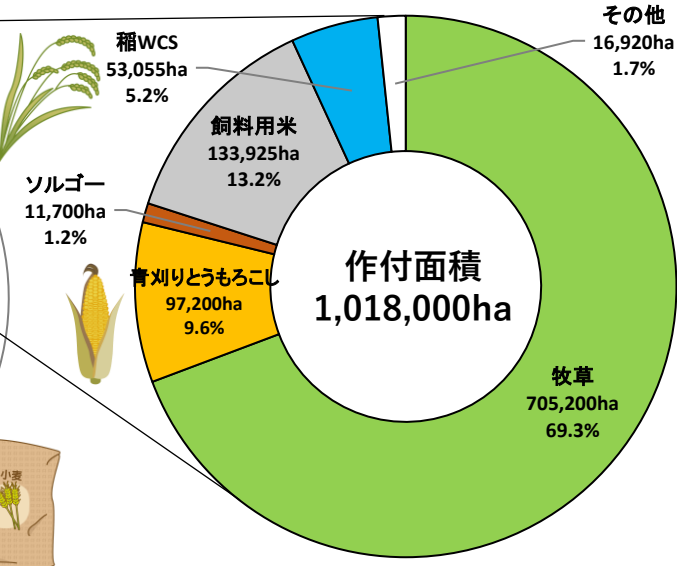
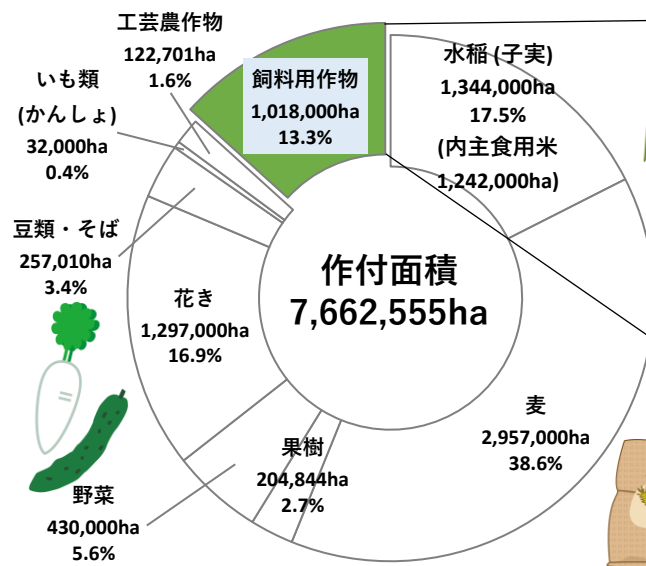
★農場における発生予防対策

- ・ 農場に出入りする全ての人・車両・物品の**衛生対策（洗浄・消毒等）を徹底**する
- ・ 衛生管理区域・家きん舎**専用**の、衛生的な長靴や衣服を着用する
- ・ 家きん舎は定期的に点検して、畜舎の壁、防鳥ネット等の破損等はすぐに修繕し、野生動物の侵入や誘引を防止する

また、鳥インフルエンザの発生農場を見に行くこともやめましょう！
防疫措置の妨げやウイルスを他の場所へ運んでしまい、感染が広がってしまう恐れがあります。まん延防止にご協力をお願いいたします。

8. 飼料

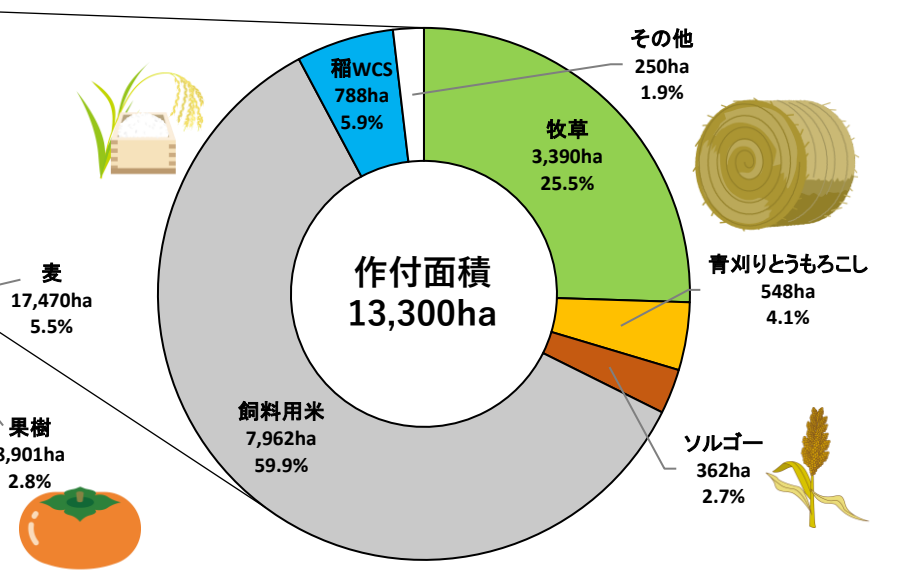
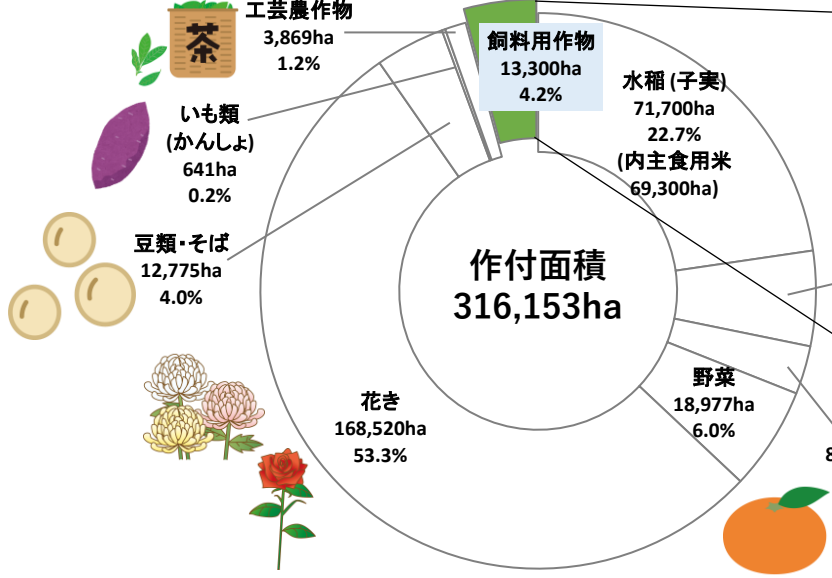
○作物別作付面積（全国）【令和5年産】 ○飼料作物種類別作付面積（全国）【令和5年産】



- ・ 全国の作物別作付面積と比較すると東海地域では、**花き**の割合が高い
- ・ 飼料作物種類別作付面積は、全国では**牧草**の割合が高くなっているが、東海地域では、**飼料用米**が半数以上を占めている

注：果樹及び工芸農作物の茶は令和2年、花きは令和4年、豆類の小豆、いんげん、らっかせい、工芸農作物のこんにゃくいもは令和6年のデータを使用している

○作物別作付面積（東海地域）【令和5年産】 ○飼料作物種類別作付面積（東海地域）【令和5年産】

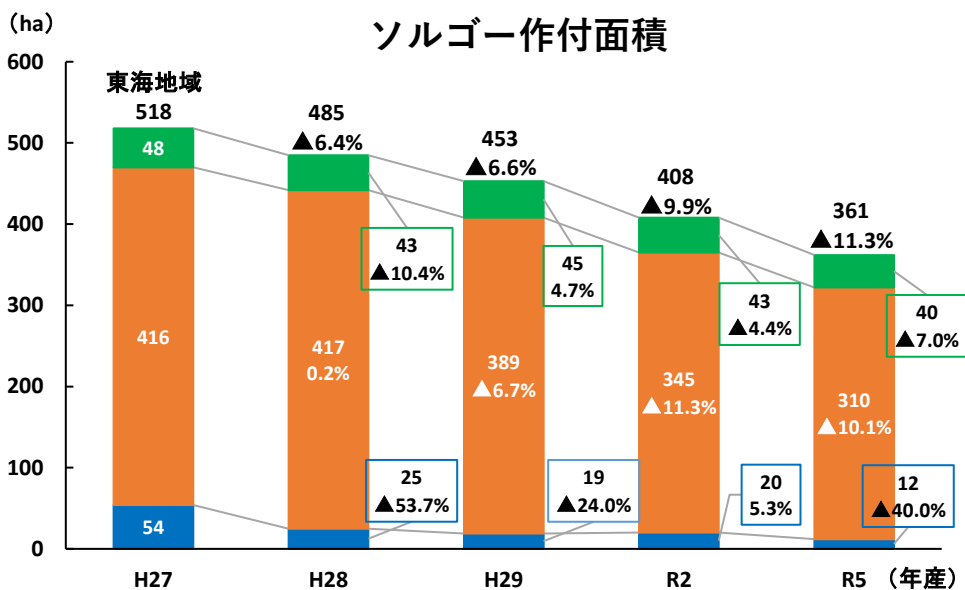
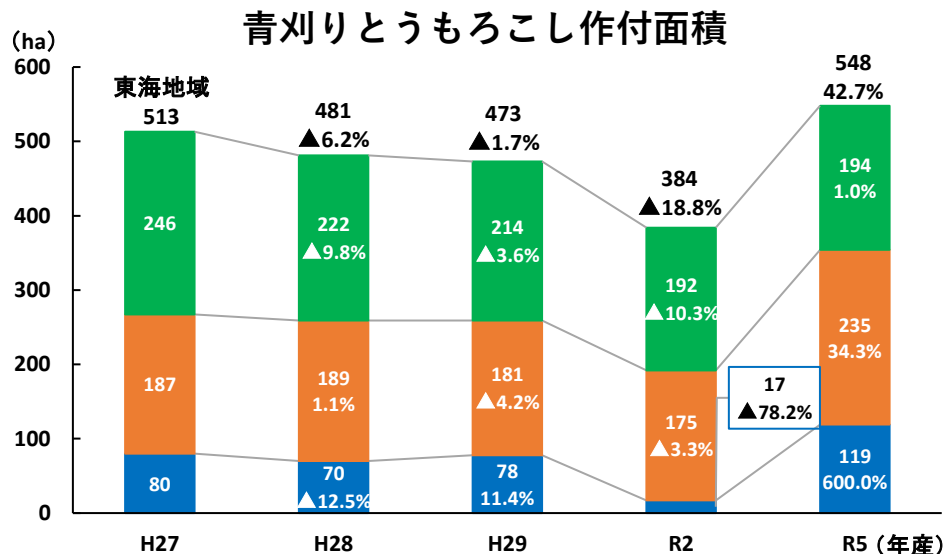
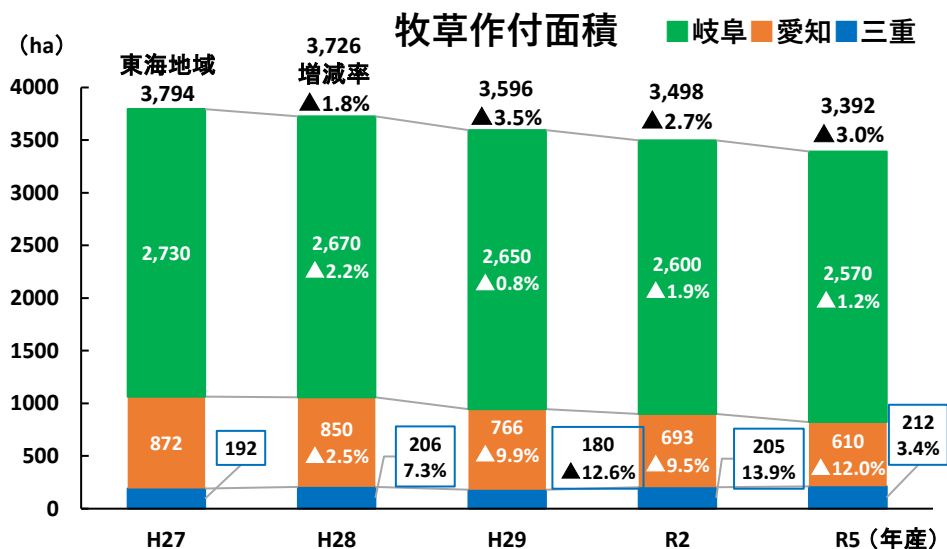


参考資料：農林水産省「作物統計調査」（作付面積調査の時期は、作物ごとに異なる）



8. 飼料

○飼料（牧草・青刈りとうもろこし・ソルゴー）の作付面積推移



- ・ 牧草及びソルゴーの作付面積は年々減少している
 - ・ 青刈りとうもろこしの作付面積は東海地域として令和2年まで年々減少していたが、令和5年は増加した
 - 令和2年は、7月に発生した豪雨や9月に発生した台風10号により、飼料作物にも被害が生じたと考えられる
- (参考資料：農林水産省「第3節 令和2年度の自然災害からの復旧」
農林水産省「令和2年台風10号に関する情報」)
- ・ 牧草及び令和2年までの青刈りとうもろこしの作付面積は、東海地域の中で岐阜県が一番多い
 - ・ 東海地域におけるソルゴーの作付面積は、愛知県が大部分を占めている

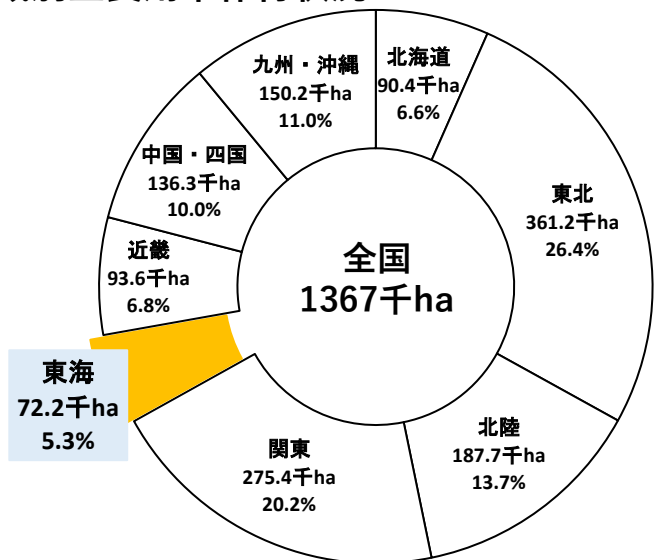
参考資料：農林水産省「作物統計調査」(H30以降は集計が3年ごと)



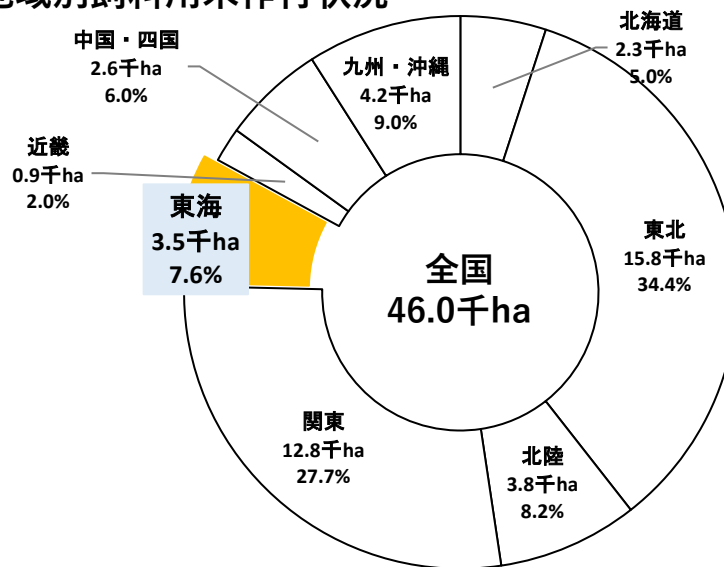
8. 飼料 <主食用米・飼料用米・WCS用稲>

○令和7年産の水田における作付状況【令和7年9月15日時点】

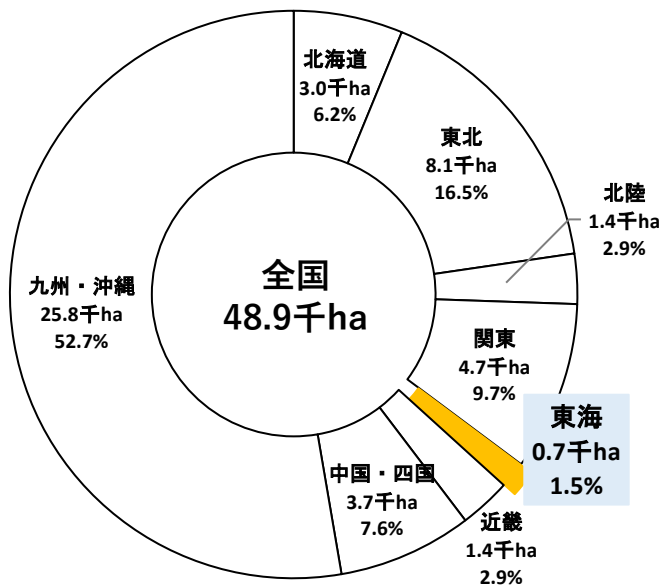
○地域別主食用米作付状況



○地域別飼料用米作付状況



○地域別WCS用稲作付状況

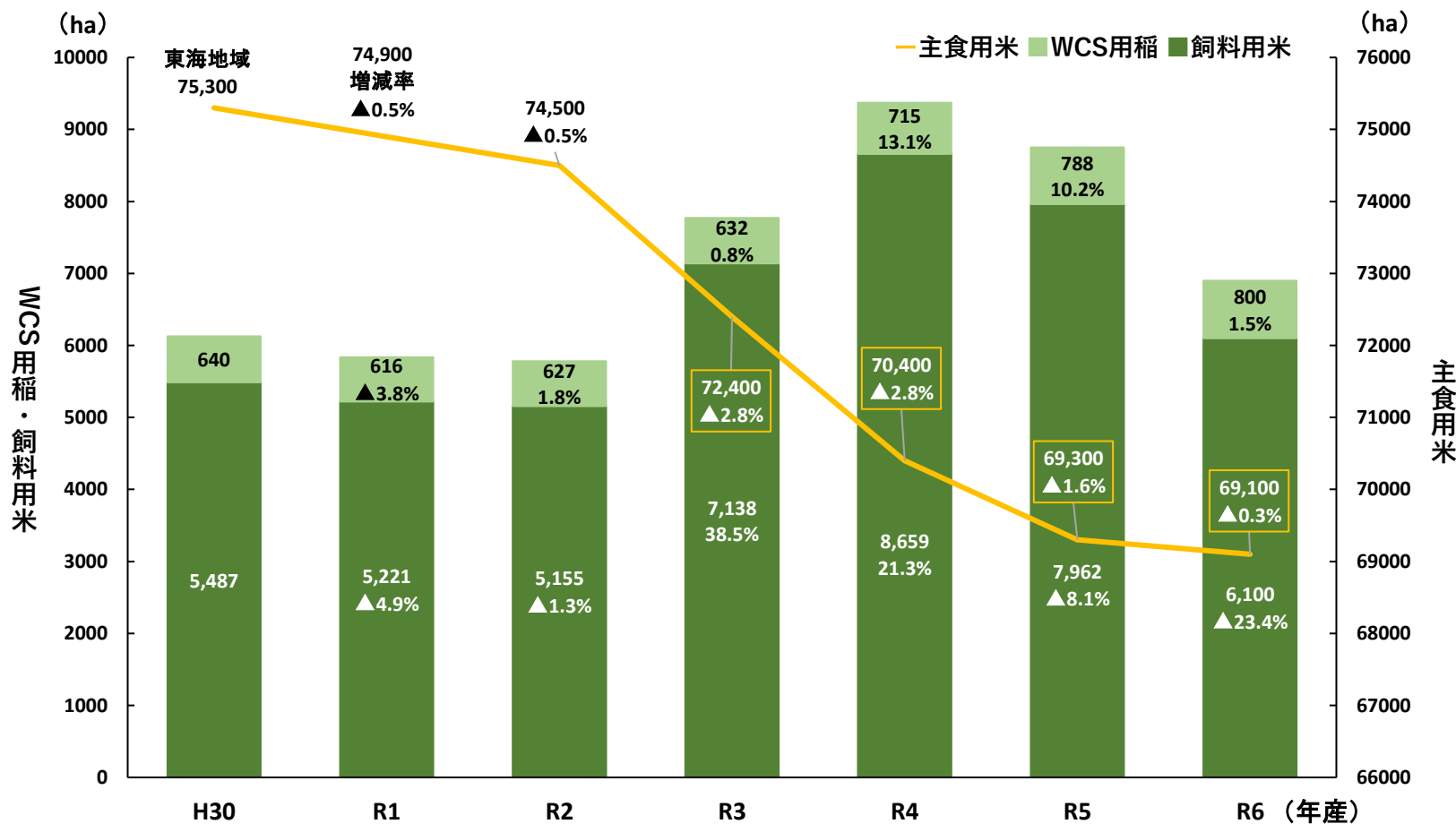


・令和7年9月15日時点の全国に占める東海地域の作付状況の割合は、主食用米（5.3%）と比較して飼料用米（7.6%）のほうが高い



8. 飼料 <主食用米・飼料用米・WCS用稲>

○東海地域での水田における作付状況【各年9月15日時点】



・令和3年から**主食用米**の作付面積が**減少**しており、それに伴い**飼料用米**の作付面積が**増加**したが、令和5年及び令和6年は**減少**に転じている
 →令和6年、6月下旬から7月中旬にかけての**断続的な日照不足**、8月以降の**記録的な高温**等が影響

(参考資料：農林水産省「作物統計調査 令和6年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量（令和6年11月19日公表）」)



9. 養蜂

○飼育戸数及び蜂群数の全国順位【令和7年1月1日時点】

・飼育戸数 (単位：戸)

順位	都道府県	飼育戸数
1	長野	569
2	千葉	494
3	静岡	474
4	福岡	444
5	岐阜	443
6	岡山	409
7	群馬	401
8	埼玉	386
9	広島	386
10	愛知	379
⋮		
29	三重	198
⋮		
	合計	12,150
	平均	259

・蜂群数 (単位：群)

順位	都道府県	蜂群数
1	沖縄	23,257
2	長野	16,992
3	千葉	13,711
4	熊本	13,698
5	鹿児島	12,911
6	福岡	10,426
7	和歌山	10,329
8	福島	9,622
9	埼玉	7,854
10	広島	6,577
⋮		
12	岐阜	6,298
⋮		
20	愛知	4,865
22	三重	4,631
⋮		
	合計	241,805
	平均	5,145



・飼育戸数及び蜂群数は東海地域の中でいずれも**岐阜県**が一番多い
 ・特に**岐阜県**及び**愛知県**の飼育戸数は、**全国TOP10**入りしている

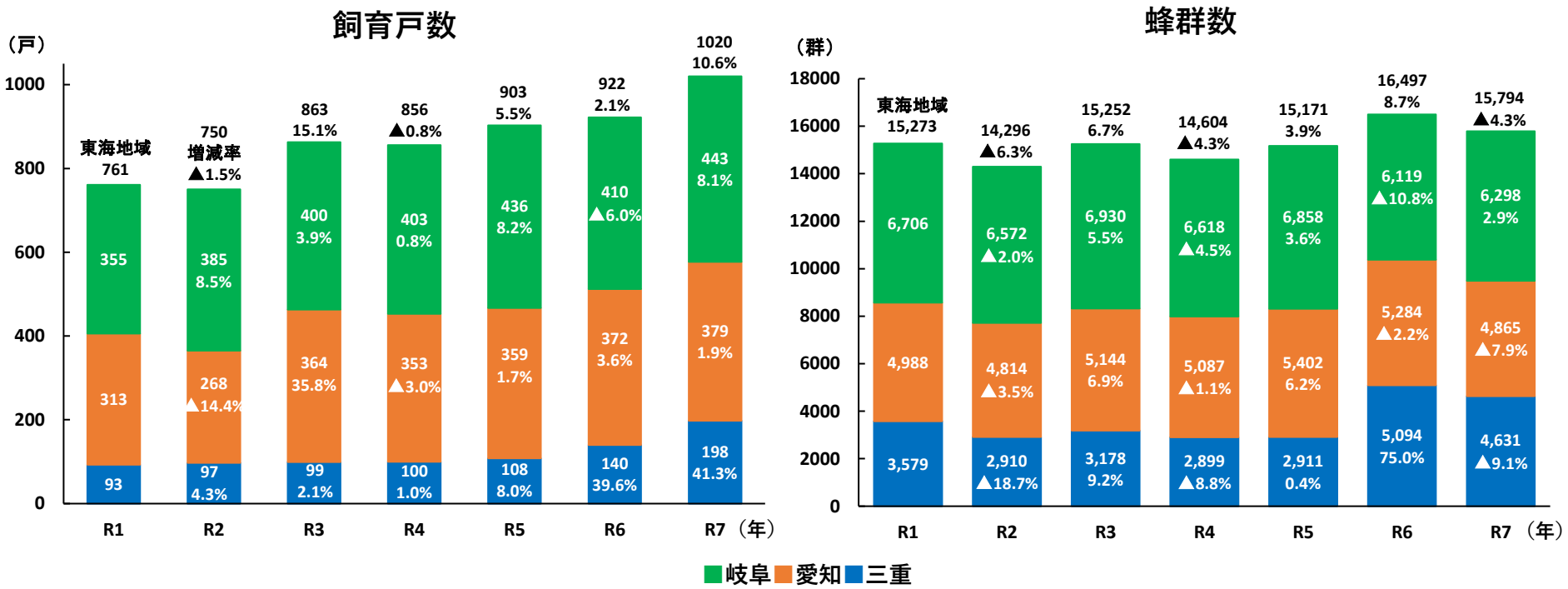


参考資料：農林水産省 畜産局畜産振興課調べ（各都道府県からの聞き取り）



9. 養蜂

○飼育戸数及び蜂群数の推移【各年1月1日時点】



- ・ 飼育戸数は年々 **増加** している
- ・ 蜂群数は、年によって若干の変動があるが、ほぼ **横ばい** で推移している



参考資料：農林水産省 畜産局畜産振興課調べ（各都道府県からの聞き取り）
 各県の数値は、各県からの報告を基に作成されたものであり、
 各年次の統計データの連続性については留意されたい



9. 養蜂

○蜂蜜・蜜ろう・ローヤルゼリー生産量の全国順位【令和6年1月～12月】

・蜂蜜（単位：kg）

順位	都道府県	生産量
1	北海道	356,397
2	熊本	244,170
3	秋田	229,055
4	長野	218,813
5	青森	134,321
6	和歌山	115,896
7	愛知	100,463
8	静岡	92,309
9	福岡	89,468
10	愛媛	85,215
⋮		
16	岐阜	52,836
⋮		
31	三重	20,426
⋮		
	合計	2,618,158
	平均	60,887

・蜜ろう（単位：kg）

順位	都道府県	生産量
1	北海道	3,660
2	山形	1,000
3	秋田	839
4	福岡	770
5	兵庫	717
6	滋賀	668
7	三重	403
8	岐阜	390
9	愛知	358
10	埼玉	317
⋮		
	合計	11,906
	平均	331

・ローヤルゼリー（単位：kg）

順位	都道府県	生産量
1	岡山	1,800
2	愛知	174
3	沖縄	113
4	滋賀	83
5	青森	36
6	宮城	32
7	岩手	30
8	静岡	22
9	栃木	11
10	長野	10
⋮		
21	三重	0
-	岐阜	-
⋮		
	合計	2,349
	平均	76

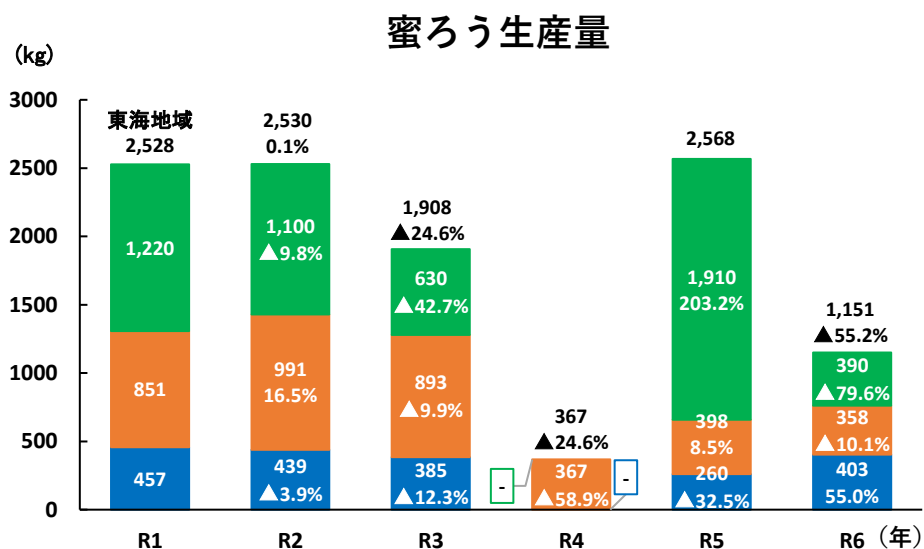
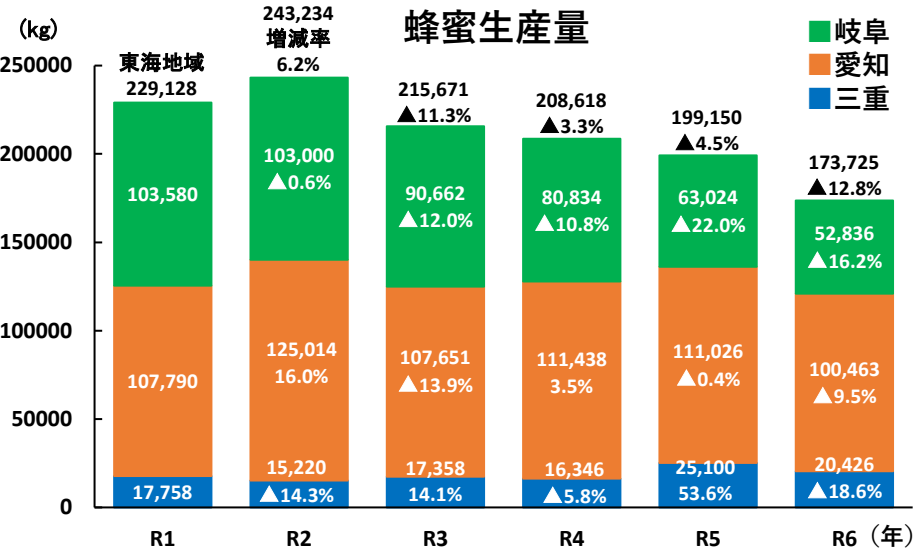
- ・蜜ろう生産量は、東海地域の3県とも**全国TOP10**入りしている
- ・蜂蜜生産量及びローヤルゼリー生産量は、いずれも**愛知県**が**TOP10**入りしている



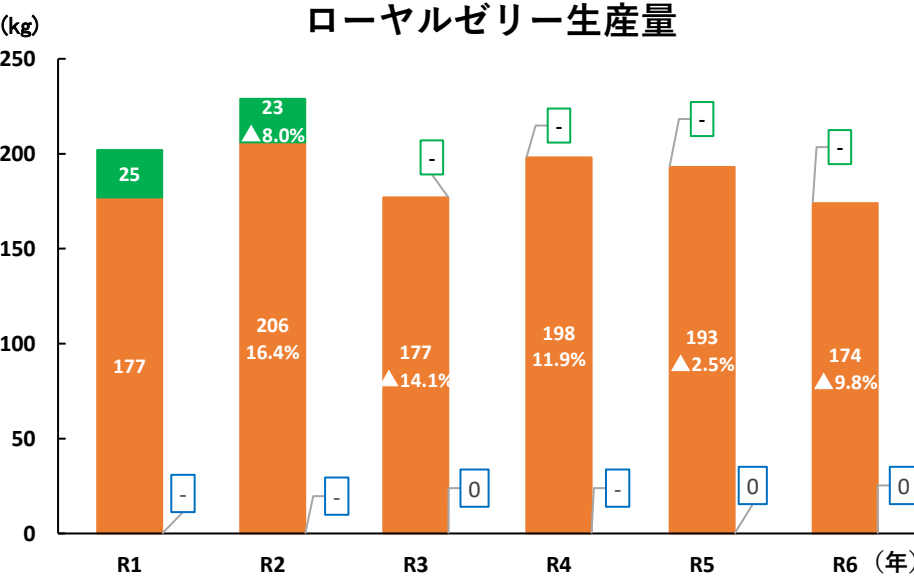


9. 養蜂

○蜂蜜・蜜ろう・ローヤルゼリー生産量の推移【各年1月～12月】



※岐阜県と三重県：令和4年度は未調査(-)
 (令和4年から令和5年にかけての増減率は示していない)



※岐阜県：令和3年度～令和6年度まで未調査(-)
 三重県：令和1、2、4年は未調査(-)

- ・蜂蜜生産量は、令和2年で若干増加しているが、以降は年々減少している
- ・蜜ろう生産量は、未調査の年もあるが、年により生産量に大きな変動がある
- ・ローヤルゼリー生産量は、未調査の年もあるが東海地域の内、愛知県がほとんどを占めている

参考資料：農林水産省 畜産局畜産振興課調べ（各都道府県からの聞き取り）
 各県の数値は、各県からの報告を基に作成されたものであり、
 各年次の統計データの連続性については留意されたい



9. 養蜂 <用語解説>

○蜂群…女王蜂1匹と約2万匹の働き蜂で構成された巣箱1箱のこと

参考：農林水産省「養蜂をめぐる情勢（令和7年11月）」

○日本の主な蜜源植物…ウンシュウミカン、ソバ、ニセアカシア、リンゴ、レンゲなど
ほかにも多種多様の植物がある

参考：一般社団法人日本養蜂協会「日本の主要蜜源植物」

○蜂蜜…蜜蜂が吸い取った花蜜を、巣房の壁に貼り付け、翅で風を起こし水分を蒸発させたもの。
この時、蜜蜂の唾液に含まれる転化酵素が花蜜に混ぜられ、主成分であるショ糖が
果糖とブドウ糖に分解される。水分量が20%程度になると“蜜ろう”で軽くふたをする
主な用途：薬用、食用

○蜜ろう…蜜蜂が蜂蜜を食べ、腹部にある蠟腺から蠟を分泌し、大あごでこねたもの。
六角形の部屋（巣房）は蜜ろうで作られており、蜜ろうを作るためには約10倍の
蜂蜜が必要である。

主な用途：ろうそく、化粧品、離型用剤など

○ローヤルゼリー…極めて若いメスバチが花粉や花蜜、蜂蜜を食べ、唾液腺で生合成を行い、
あごの外分泌腺から出す酸味のあるクリーム状の物質。女王蜂にとっての
唯一無二の食物であり、これを食べることにより、自分と同じ重さの卵
（約1500～2000個）を毎日産み続けられる。

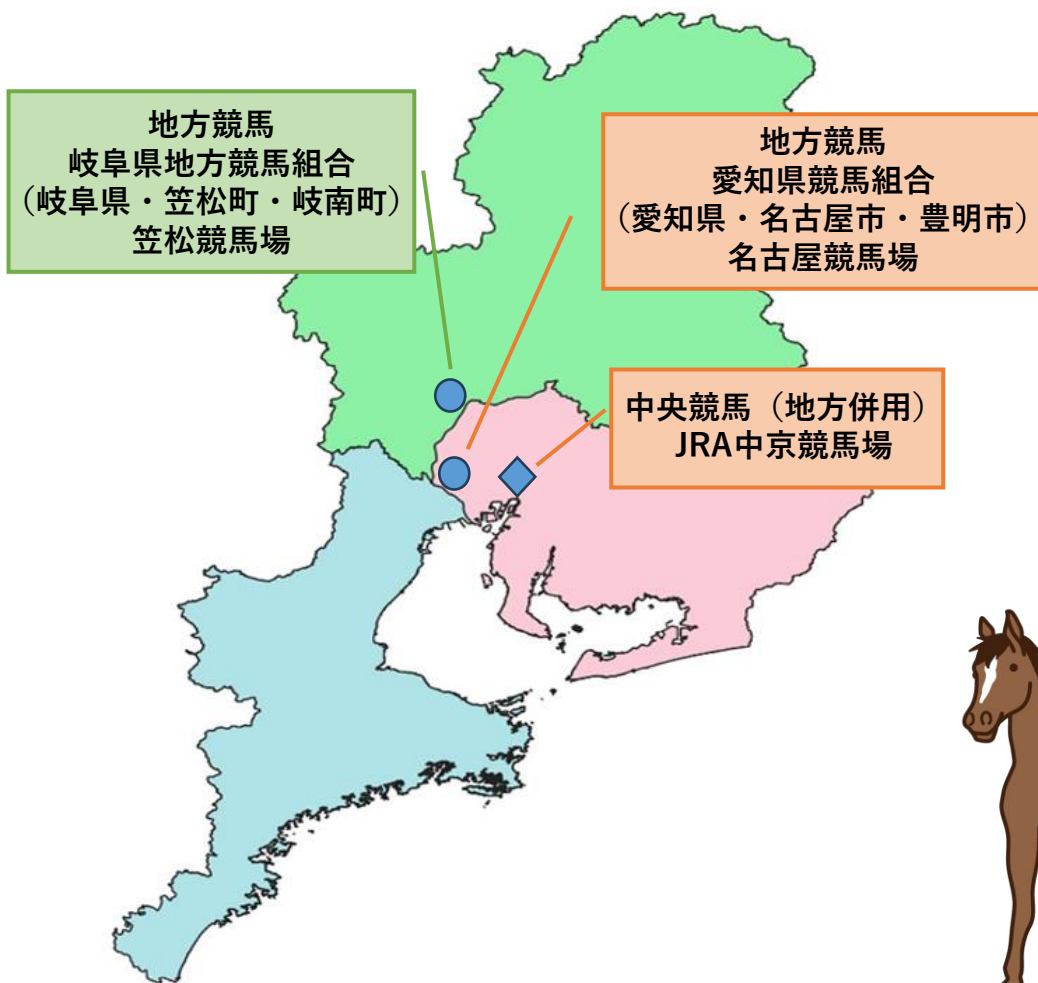
主な用途：栄養補助食品

参考：一般社団法人日本養蜂協会「ミツバチ産品」



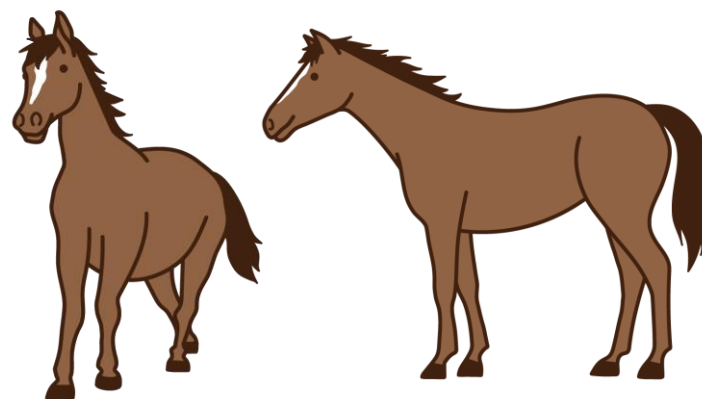
10. 競馬

○東海管内の競馬場配置図



○東海管内には3か所の競馬場があり、2か所では地方競馬が、1か所では中央競馬（地方併用）が行われている

○競馬についてさらに知りたい方は農林水産省「競馬」をご覧ください。



11. 畜産物の輸出 <牛肉>

○東海管内の輸出認定施設

☆畜産物の輸出については、動物検疫所による輸出検疫のほか、輸出先相手国においては施設認定や認定施設でのと畜・解体、衛生証明書の添付等の輸出条件を定めていることがある

★飛騨食肉センター (①)

飛騨ミート農業協同組合連合会

- ・北米：アメリカ合衆国、カナダ
- ・中南米：アルゼンチン、メキシコ
- ・大洋州：オーストラリア、※ニュージーランド
- ・アジア：シンガポール、タイ、フィリピン、台湾、香港、ベトナム、ミャンマー、マカオ
- ・欧州：EU

★：と畜場

下段：食肉処理場

○岐阜県：世界各地へ牛肉を輸出できる認定施設を所有

○愛知県と三重県：輸出認定施設はアジアに絞られており、愛知県は特にアジアの各国へ輸出可能

★名古屋市南部と畜場 (②~⑧)

★：と畜場

下段(番号)：食肉処理場

②杉本食肉産業株式会社 南部市場工場

・ベトナム、ミャンマー、マカオ、タイ

③株式会社 建部食肉産業 港工場

・ベトナム、ミャンマー、マカオ、タイ

④IHミートパッカー株式会社名古屋ミートセンター

・ベトナム、タイ

⑤中日本フード株式会社 物販事業部 国内ビーフ部

・ベトナム、マカオ、タイ

⑥JA全農ミートフーズ株式会社 中部営業本部 名古屋工場

・ミャンマー、マカオ、タイ

⑦JAあいち経済連 名古屋ミートセンター

・マカオ、タイ

⑧公益財団法人名古屋食肉公社

・タイ

★東三河食肉流通センター (⑨)

愛知県経済農業協同組合連合会 東三河ミートセンター

・マカオ

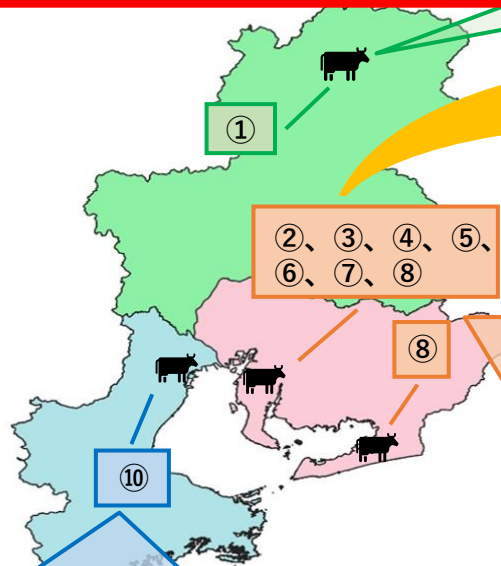
★四日市市食肉センター (⑩)

株式会社三重県四日市畜産公社

・マカオ

★：と畜場

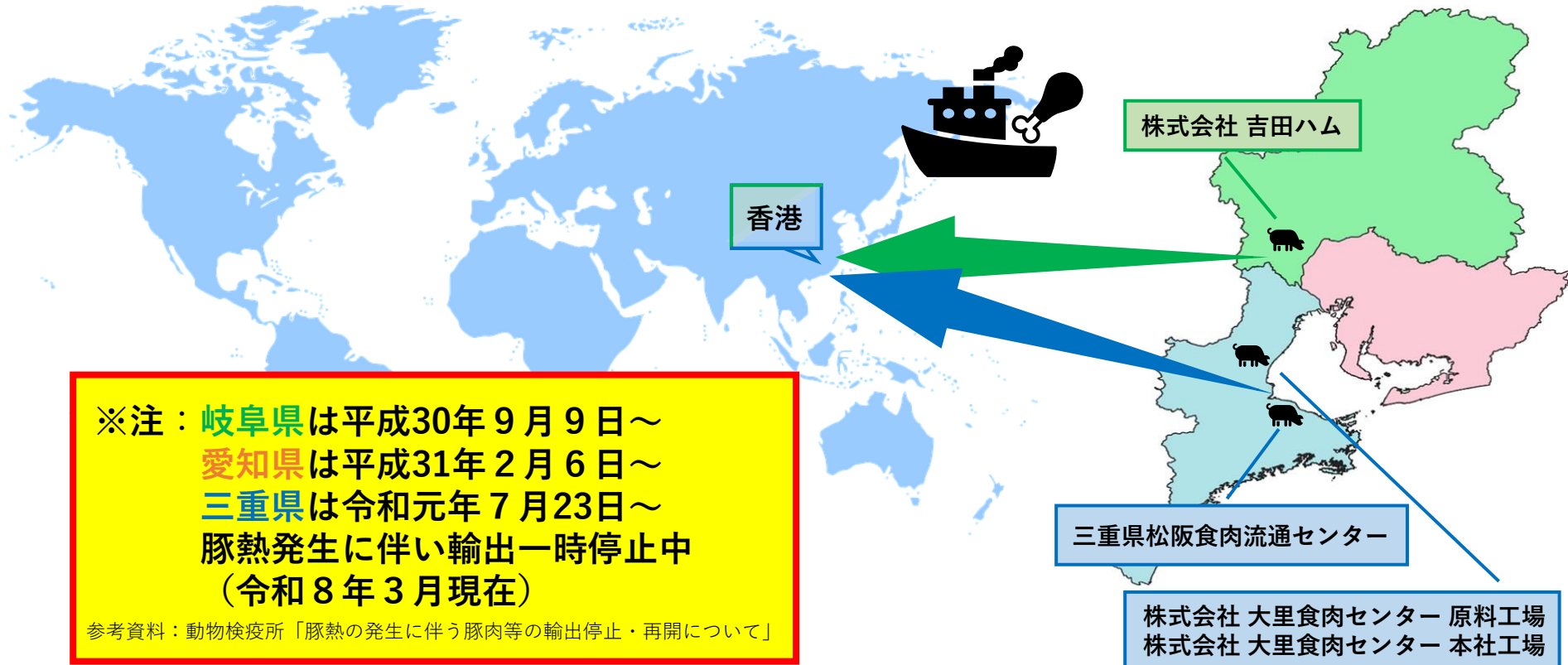
下段：食肉処理場



11. 畜産物の輸出 <豚肉>

○東海管内の輸出認定施設

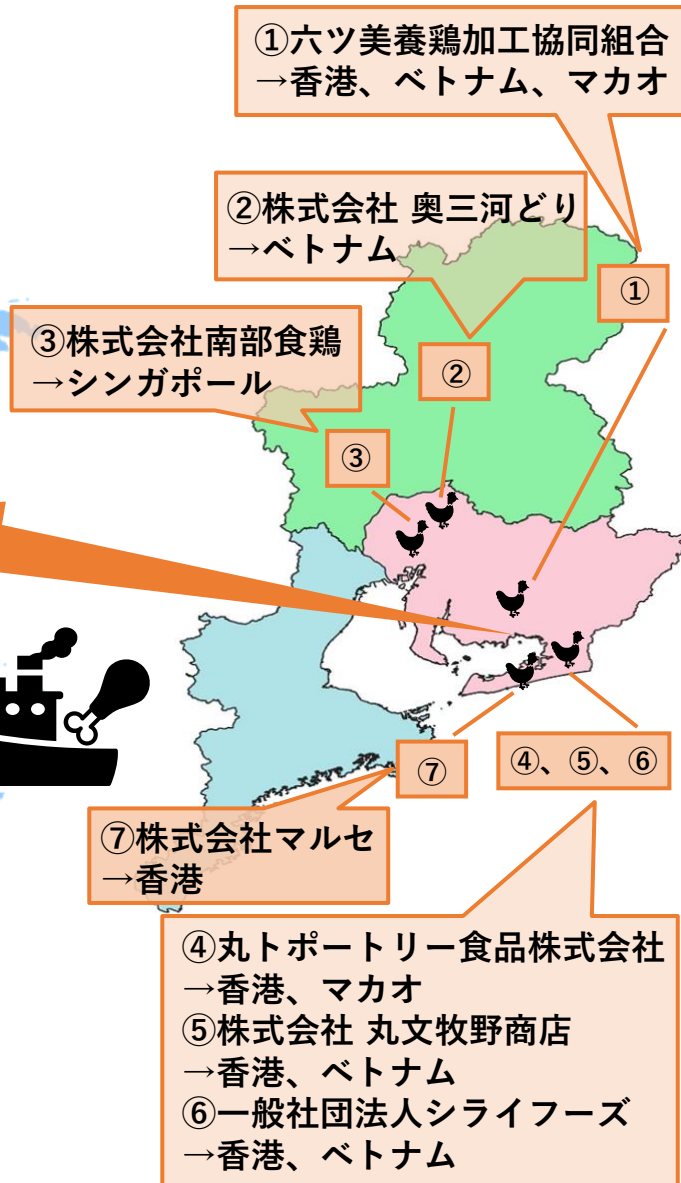
- ・豚肉の輸出認定施設は、アジア内でも香港のみである
- ・牛肉と比較して認定施設は少ない



11. 畜産物の輸出 <家きん肉>

○東海管内の輸出認定施設

- ・東海地域で、家きん肉の輸出認定施設があるのは**愛知県**のみ
- ・**アジア各国**への輸出が可能（右図参照）



★我が国において高病原性鳥インフルエンザの発生に伴い、発生都道府県で生産及び処理されたものは、各輸出先国の受け入れ条件により、輸出の停止もしくは一部制限

- ・輸出停止や一部制限の詳細は以下を参照してください。
動物検疫所「鳥インフルエンザの発生に伴う家きん肉・家きん卵の輸出停止・再開について」

11. 畜産物の輸出 <殻付き家きん卵>

○東海管内の輸出認定施設

- ⑦丸ト鶏卵販売株式会社 本社工場
- ⑧有限会社 鈴木養鶏場
- ⑨株式会社 小川屋GPセンター
- ⑩有限会社 花井養鶏場
- ⑪株式会社 クレスト 大草GPセンター
- ⑫株式会社 半田ファーム 半田GPセンター
- ⑬有限会社 知多エッグGPセンター
- ⑭こはくファーム
- ⑮三栄鶏卵株式会社 豊橋G.Pセンター
- ⑯有限会社 富田養鶏場GPセンター
- ⑰株式会社 ジェイエイ東三河ジーピーセンター
- ⑱株式会社 イラコファームGPセンター
- ⑲豊橋養鶏農業協同組合 GPセンター
- ⑳三栄鶏卵株式会社 G.Pセンター
- ㉑株式会社 太田商店 たまご工場

- ⑳三栄ファーム株式会社 渥美農場
- ㉑三栄ファーム株式会社 渥美農場第2農場
- ㉒三栄ファーム株式会社 豊橋第1農場

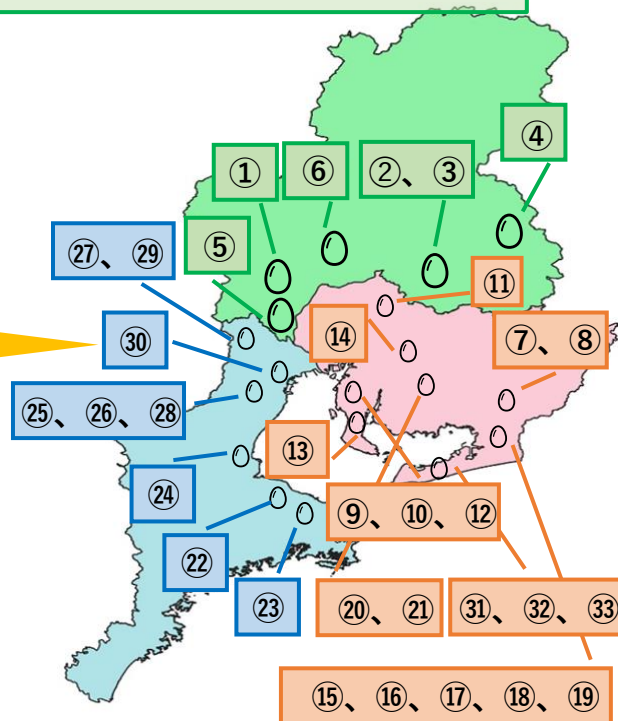
- ㉓株式会社 グリーンファーム
- ㉔株式会社 地主協和商会 本社GPセンター
- ㉕ヤマギシGPセンター
- ㉖有限会社 スズランファーム
- ㉗株式会社 坂口商店
- ㉘たまご&ファーマーズ株式会社 伊賀パッキング工場
- ㉙株式会社 室善
- ㉚伊賀産業株式会社
- ㉛三昌鶏卵株式会社

- ①西美濃鶏卵販売農業協同組合GPセンター
- ②アイ・ティー・エスファーム株式会社中部事業所 GPセンター
- ③株式会社 クレスト 瑞浪GPセンター
- ④株式会社 ダイシンエッグ 中津川GPセンター
- ⑤株式会社 南濃鶏卵GPセンター
- ⑥株式会社 美和ふ卵場

※輸出停止措置については
家きん肉と同様

香港
①～③⑩

シンガポール
(③①、③②、③③)



- ・牛肉、豚肉、家きん肉と比較するとより多くの会社が認定を取得している
- ・香港とシンガポールへ輸出ができる